

【み環-1】 事前評価

野毛山動物園リニューアル事業

(みどり環境局)

CITY OF YOKOHAMA

横浜市公共事業評価【事前評価】

【み環ー１】

野毛山動物園リニューアル事業

みどり環境局 戦略企画課

令和８年１月21日



横浜市

横浜市立動物園について



横浜市には3つの動物園があり、市民に、動物を通じて楽しさ・憩い・癒しの場、また、世界の野生動物の生態と現状を理解し地球規模での環境保全へ向けて行動する機会を提供しています。また、動物園は、種の保存・保護および調査研究の活動を行い、国際的役割を担っています。

● 野毛山動物園

『小さな子どもが初めて動物に出会い、ふれあい、命を感じる動物園』 誰もが気軽に訪れて、楽しく、憩い、癒される動物園』

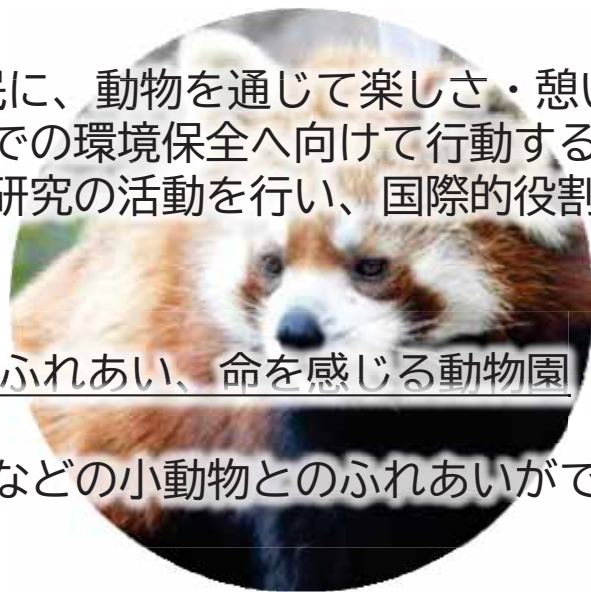
横浜で一番古い動物園。モルモットなどの小動物とのふれあいができる「なかよし広場」や爬虫類館などが人気を集めています。

● よこはま動物園ズーラシア

日本を代表する世界に通じる動物園として、「アジアの熱帯林」から「アフリカのサバンナ」まで8つの気候帯で構成。展示場は「生息環境展示」となっており、オカピやインドライオンなど日本初渡来の動物を数多く飼育している国内最大級の動物園です。

● 金沢動物園

身近な自然環境とつながる森のミュージアムとして、周辺の豊かな森をテーマに、身近な生き物を通した環境教育と身近な野生動物の保全に力をいれています。また、コアラやインドゾウなどの希少草食動物も展示しています。



事業目的

野毛山動物園は1951年の開園以来、横浜市民に長年親しまれていますが、施設の老朽化やバリアフリーの対応、動物の飼育環境など、改善すべき課題が顕在化しており、現代の社会的要請や利用者ニーズに応えるため、動物園全体をリニューアルしていくことが求められています。

本リニューアル事業は、動物福祉の向上を行うことを基本に、以下の視点で実施するものです。

- ①誰もが利用しやすいインクルーシブな施設づくり
- ②親子の楽しみを充実
- ③動物とのふれあいを充実
- ④都市部に立地する動物園として地域の賑わいづくり、都心臨海部との回遊性向上



老朽化した獣舎



高低差の大きい園路

【野毛山動物園の概要】

名称	野毛山動物園
所在地	西区老松町63番地10
面積	約3.3ha
開園	当初開園 1951年
基本方針	小さな子供が初めて動物に出会い、ふれあい、命を感じる動物園 誰もが気軽に訪れて、楽しく、憩い、癒される動物園



※「インクルーシブ」とは、年齢・性別・国籍・障害の有無などに関わらず、すべての人を平等に受け入れ共存できる環境や社会を目指す考え方

事業内容

①事業概要

【リニューアル事業対象面積】

動物園面積3.3haのうち2.7haを再整備
(再整備面積の内訳)

○エリアA：約1.2ha

動物園全域の中で特にリニューアル効果の高い
エントランスエリアや、バリアフリー化を図る
ために不可欠となる動物展示等複合施設を含む
エリア

○エリアB：約0.7ha

身近な動物と多様な形でふれあいを体験できる
ゾーンで、新しい家畜舎を含むエリア

○エリアC：約0.8ha

工事期間中の園外搬出が不可能な動物の獣舎と
その周辺のエリア



図1 事業範囲及び主要整備施設位置図

事業内容

②事業内容

【エリアA・Bの事業の内容】

・既存建築物の撤去及び3棟の新築及びバリアフリーの課題解消

新設建築物	撤去建築物	新設建築物の内容
動物展示等複合施設 RC造・地下1階 地上2階（階数2） 約1,970㎡	レッサーパンダ舎、しろくまの家、旧夜行獣舎、コンドル舎、クマ舎	・雨天時でも楽しめる屋内型の動物展示・飼育機能 ・ワークショップや団体利用可能なスペース ・エレベーター及びスロープの整備により、園内のバリアフリー動線の確保
エントランス棟 RC造・地上1階 約510㎡	入口施設、授乳室、水禽舎	・エントランス、飲食・物販、動物展示、多様な利用需要に対応した便益機能（トイレ、授乳室、ベビーカー置場、ロッカー等） ・バリアフリーな観覧園路
家畜舎 RC造・地上1階 約245㎡	シカ・ワラビー舎	・雨天時でも楽しめる動物観覧スペース、休憩・遊びスペース ・バリアフリーな観覧園路

・関連する供給処理設備改修等

リニューアルに伴う電気設備の改修、既存の給排水設備の改修等を行う。

事業内容

【現状】



【エリアA・B完了時】



【エリアC事業の内容（予定）】

- ・ 飼育・展示施設の整備（キリン・シマウマ、サル等、爬虫類館）
- ・ 供給処理設備
- ・ 舗装、植栽など

事業スケジュール

令和5年度 : 基本構想の検討

令和6年度 : エリアA・B基本計画の検討

令和7年度～令和8年度 : エリアA・B基本設計、実施設計、発注手続き

令和9年度～令和10年度 : エリアA・B工事

令和11年度以降 : エリアC順次整備 ※検討中

総事業費

エリアA・Bの整備費 約62億円 （国庫31億円 市単31億円）

施設	整備費
動物展示等複合施設	36.5億円
エントランス棟	13.0億円
家畜舎	5.6億円
その他（インフラ、造園等）	7.1億円

※エリアCは計画策定中ですが、概算で30億円程度を見込んでいます。

事業の必要性

①必要性

●動物福祉への配慮

清潔な環境の提供や適正な給水・給餌だけでなく、動物種に応じた適切な広さの飼育スペースを確保し、本来の運動能力を発揮できるようにします。

●インクルーシブの推進

最大高低差約20mという地形的特徴により、園内には急勾配な園路や階段があり、子供連れ、高齢者、障害者等の多様な利用者にとって快適に利用できる環境の整備が必要です。「のげやまインクルーシブ構想」において、誰もが分け隔てなく、学び、楽しみ、やすらげる場所となるようなエリア全体での取組が求められています。

事業の必要性

①必要性

●多様な利用者ニーズへの対応による利便性、サービス向上

令和6年の市民意見募集では、「日よけ用の屋根や木陰、真夏や真冬でも楽しめる園内施設を整備してほしい。」「授乳室やオムツ替え室、子ども用トイレなど、親子連れが使いやすい施設を整備してほしい。」などの声が寄せられました。多様な利用者ニーズに対応した施設整備が求められています。

●園内施設の老朽化対策

既存建築物の大半は、RC造建物の法定耐用年数（47年）を超えています。老朽化しており、今後の安全安心な施設運営を可能とする対策を実施する必要があります。

事業の必要性

②上位計画における位置づけ

●横浜市中期計画2022-2025（令和4年12月）

『政策31 自然豊かな都市環境の充実』において、動物園の施設の充実を図ることとしています。

5 都市ブランド力の向上に向けた動物園の充実	主管局	環境創造局
市内3つの動物園（横浜動物の森公園・野毛山公園・金沢自然公園）において、それぞれの強みを生かした管理運営を行うとともに、子どもたちや観光客など来園者のターゲットに合わせた施設の充実を図ることで、動物への親しみや触れ合いを通じて楽しさや癒い・癒しを感じられる場を創出し、都市のにぎわいや魅力・都市ブランドの向上にもつなげます。		

事業の必要性

②上位計画における位置づけ

●のげやまインクルーシブ構想（令和6年1月）

野毛山動物園を含むエリア全体のコンセプトとして右記が掲げられており、インクルーシブなまちづくりの展開に向けた施設整備を進めることとしています。

インクルーシブ構想のコンセプト

○永く市民の皆様から愛されてきた歴史ある動物園・公園、中央図書館が集積する野毛山地区が、これまで以上に、誰もが分け隔てなく、**学び、楽しみ、やすらげる場所**となるよう、エリアコンセプトに基づき、各施設が連携しながらエリア全体でまちづくりを進めます。

誰もが学び、楽しみ、交流し、理解しあえる
インクルーシブなまちづくりの展開

エリアコンセプトに基づきリニューアル・施設整備を進める



図1 のげやまインクルーシブ構想抜粋

事業の必要性

②上位計画における位置づけ

●野毛山動物園リニューアルプラン（令和6年6月）

動物福祉への配慮を基本におき、野毛山動物園の特徴を生かしながら、さらにその価値を高めていくための4つの視点（① インクルーシブ ② 親子の楽しみを充実③ 動物とのふれあいを充実 ④ 都市型）を定め、これらに応じた様々な取組を進めていくこととしています。

●横浜市建築物における木材の利用の促進に関する方針（令和4年4月）

脱炭素社会の実現に資する等の目的で、建物を建築する際には木材利用を促進することが全国的に求められています。横浜市でも令和4年に上記方針を示し、木材利用の促進に向けた普及啓発等に取り組んでいます。

●公共建築物における環境配慮基準（令和7年3月改正）

環境負荷の低減及び周辺環境の保全に配慮した公共建築物の整備を推進するため、市が整備する公共建築物に求められる環境配慮の基準を定めています。

事業の必要性

③社会経済情勢

●インクルーシブ社会の実現

近年、「誰も取り残さない」という理念のもと、教育・福祉・企業経営・まちづくり・IT等、様々な分野で「インクルーシブ」をキーワードにした取り組みが進められ、野毛山地区においても令和6年にのげやまインクルーシブ構想を発表しました。

●近年の動物園における動向

動物園が果たすべき役割としては、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」があります。さらに近年では「動物福祉（アニマルウェルフェア）」についての考えが世界的に重要視されるようになっていきます。

●建設費の高騰

建設資材やエネルギー価格及び人件費等の高騰を背景に、公共事業における建設費が高騰しています。

事業の必要性

④公的関与の必要性

●動物園の持つ公共的・公益的役割

動物園の役割として、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」が挙げられているように、動物園には、一定の公共的・公益的役割が求められています。野毛山動物園においても、希少種であるヘサキリクガメの国内初の繁殖成功や、レッサーパンダの人工哺育の現状や課題について調査研究成果を発表する等、種の保存及び調査研究機関として公益的役割の一翼を担っています。

●運営の安定性・継続性

安定した飼育環境の提供は動物福祉（アニマルウェルフェア）の観点からも重要です。収益性によって経営体制に影響を受けやすい民間運営ではなく、公的機関が運営に主体的に関与する必要性、意義は高いと考えられます。

事業の効果

①定性的事項

●動物福祉への配慮

本事業では、JAZA（公益社団法人日本動物園水族館協会）の適正施設ガイドラインに適合した獣舎となり、施設規模の向上だけでなく、断熱性・防水性・採光・通風等の機能向上が図られ、動物の飼育環境が向上します。これにより、動物の心的及び身体的な健康状態の改善、健全な繁殖の推進といった効果が期待されます。

●インクルーシブの推進

今回の事業対象範囲について「横浜市移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置の基準に関する条例※」等に適合した施設整備を推進することで、子供連れ、高齢者、障害者等の多様な利用者の利用環境が向上します。また、「のげやまインクルーシブ構想」の構成施設として、野毛山地区一帯のインクルーシブなまちづくりに寄与します。

※ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づき、公園の出入口の幅、通路の幅・勾配、高齢者、障害者等が利用する便所を設ける場合の基準などを定めた条例

事業の効果

①定性的事項

●多様な利用者の利便性、サービス向上

今回の事業対象範囲について、子育て世代・障害者・団体利用者・雨天時利用等の多様な利用形態に合わせ、雨天時でも楽しめる室内型の動物展示施設の整備や、授乳室の増設などの親子連れの来園者の利便性向上を図るための整備などを行います。また、利用者ニーズに対応した飲食・物販機能の充実や動物とのふれあい・観覧環境の向上等、サービス水準の向上も図ります。

●園内施設の安全・安心の確保及び向上

老朽化している建築物の撤去・建替えを行うことにより、建築物の老朽化の課題が解消され、安全性が向上します。

●管理運営面での利便性向上、効率化

エントランス棟の施設計画の工夫（管理運営体制を考慮した受付、警備員室、倉庫等の配置や規模設定）、動物展示等複合施設の新築による飼育管理の改善（キーパーの作業スペースの確保、設備の更新）等によって、管理運営面での利便性の向上、効率化を図ります。

事業の効果

①定性的事項

●教育・環境教育効果

動物展示等複合施設内にワークショップスペースや団体利用スペースを設け、環境教育や命の大切さを学ぶ機会を提供します。これにより、来園者に対する教育効果や地域の教育資源としての価値が向上します。

●地域経済・賑わい創出効果

リニューアルにより来園者数の増加が見込まれ、周辺地域の飲食・物販・交通などへの経済波及効果が期待されます。

●公共施設としての持続可能性の向上

本事業の取り組みにより、動物園が将来にわたって持続的に運営され、公共施設としての価値や市民からの信頼が高まることが期待されます。

事業の効果

②定量的事項

●費用便益分析

割引率	4%(通常)	2%(参考)	1%(参考)
総便益(B)(百万円)	47,891	74,748	96,608
総費用(C)(百万円)	30,236	35,662	39,321
費用便益比(B/C)	1.58	2.10	2.46

※改訂第4版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（平成29年4月、国土交通省都市局公園緑地・景観課（令和6年3月一部改訂））に基づき算出。

※総便益は、公園を直接利用することによって生じる価値である「直接利用価値（利用価値）」及び公園が存在することによって生じる価値である「間接利用価値（環境価値、防災価値）」の合計値。

※総費用は、施設整備費、用地費、維持管理費の合計値

※割引率は最新のマニュアルを参考に、通常の4%に加え、比較のための参考値として2%、1%の場合も加えた3ケースを設定

※野毛山動物園は1951年に開園しており、2025年現在で開園後74年が経過している。費用便益分析の算出マニュアルでは、便益発生は供用開始の49年後までとされているため、現在の動物園は便益の発生期間が終了している。したがって今回は既存動物園のリニューアルではあるが、新たに3.3haの動物園を新設した場合と同様に扱い、便益の計測を行った。

事業の効果

②定量的事項

●費用便益分析（感度分析）

算出ケース	ケース①のみ適用			ケース②のみ適用			ケース①②両方適用		
割引率	4% (通常)	2% (参考)	1% (参考)	4% (通常)	2% (参考)	1% (参考)	4% (通常)	2% (参考)	1% (参考)
総便益(B)(百万円)	43,102	67,273	86,947	47,891	74,748	96,608	43,102	67,273	86,947
総費用(C)(百万円)	30,236	35,662	39,321	32,212	37,880	41,676	32,212	37,880	41,676
費用便益比(B/C)	1.43	1.89	2.21	1.49	1.97	2.32	1.34	1.78	2.09

※感度分析は、以下のケースを想定して算出

ケース① 便益－10%

ケース② 施設費＋10%（エリアA・B整備期）、施設費＋50%（エリアC整備期）

事業の効果

③コスト削減の取組

工事段階でのコスト削減

- ・汎用品の積極的な採用により、特殊仕様の設計・施工を抑制し、整備費の低減を図ります。

運用段階でのコスト削減（ランニングコスト）

- ・自然通風、自然採光を活用した設計により、照明・空調設備の稼働負荷を軽減し、電力使用量の削減を図ります。
- ・設備の更新・修繕においても、汎用品の活用により維持管理費の抑制が可能です。

環境への配慮

①基本的な配慮事項

●周辺環境への負荷の低減

施設配置やバリアフリー化等の検討にあたっては、土地改変や樹木伐採への影響を最小化することを念頭に置いて検討します。また、施設仕様や施工計画の詳細検討にあたっては、再生材等の採用、騒音・振動等の環境影響を踏まえて検討します。

●建築物等の省エネルギー化、木材利用促進

新築する建築物については、断熱性の高い建材の採用、自然採光・通風を活かした設計などにより、省エネルギー化を図ります。また、「横浜市建築物における木材の利用の促進に関する方針」を踏まえて、来園者が利用するエリアの内装などに積極的な木材利用を検討します。

環境への配慮

②本事業の特徴を踏まえた配慮事項

●飼育動物への影響を踏まえた整備計画の立案

リニューアルにあたっては、動物の飼育環境を維持しながら整備を行う必要があるため、動物ごとに整備期間中の一時移動先を検討しながら、動物への影響を最小化させる整備計画を立案します。

地域の状況等

①対象地域の状況

●インクルーシブなまちづくりの推進

野毛山地区には長い間市民に親しまれてきた図書館・野毛山公園・野毛山動物園があり、今後新たに障害児者支援拠点も整備予定です。これらの施設が相互に連携し、エリア全体でのまちづくりが展開されています。

障害児者支援拠点と図書館、動物園・公園との連携

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER
YOKOHAMA



図1 のげやまインクルーシブ構想抜粋

地域の状況等

②地域住民の意見募集

●リニューアルプラン策定における意見募集

「野毛山動物園リニューアルプラン」の策定にあたっては、令和6年2～3月にかけて市民意見募集を行い、得られた意見を計画に反映しています。

（添付資料4「市民意見募集リーフレットと募集結果」参照）

事業手法

①管理運営手法

●指定管理者方式

動物園運営は、飼育技術の継承、動物との信頼関係が大切であり、継続性と安定性が不可欠です。また、動物園は「環境教育」や「調査研究」といった公益的かつ非常に専門性の高い事業領域のため、PFI等の手法を導入したとしても、競争性の発揮が期待しづらい施設です。また、Park-PFI等の活用により園内の一部事業に限って別の事業者が参画する場合、事業者が混在することによる調整負担の増加、責任分界の不明瞭化のリスクもあります。

上記を総合的に勘案し、指定管理者方式を採用し、民間事業者を活用した市内3動物園の一体的な管理を行います。

②整備手法

●市による直接発注・建設方式

市民サービスを提供できない期間を短くする必要があること、また、指定管理での管理運営を前提としていることから、PFI方式を採用した場合の財政平準化等のメリットを最大限活かすことができないと考え、動物園という施設の特殊性を鑑み、設計に発注者の意図を反映しやすい直接発注・建設方式を採用します。

その他

①対象地の防災に関する情報

●土砂災害警戒区域

敷地の一部の土砂災害警戒区域に指定された急傾斜地は、擁壁で対策済です。

●広域避難場所

事業区域は、一部を除き広域避難場所に指定されています。



土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律

 土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊・土石流）
 土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊・土石流）

図1 土砂災害警戒区域図

(様式 2)

公共事業事前評価調書

事業概要	事業名	【み環ー1】野毛山動物園リニューアル事業
	場所 (所在地)	西区老松町 63 番地 10
	事業目的	横浜市には3つの動物園があり、それぞれ特色をもって運営しています。野毛山動物園は『小さな子どもが初めて動物に出会い、ふれあい、命を感じる動物園 誰もが気軽に訪れて、楽しく、憩い、癒される動物園』をコンセプトに掲げており、1951年の開園以来、横浜市民に長年親しまれてきました。しかし、施設の老朽化やバリアフリーの対応、動物の飼育環境など、改善すべき課題が顕在化しており、現代の社会的要請や利用者ニーズに応えるため、動物園全体をリニューアルしていくことが求められています。 本リニューアル事業は、動物福祉の向上を行うことを基本に、以下の視点で実施するものです。 ①誰もが利用しやすいインクルーシブな施設づくり ※「インクルーシブ」とは、年齢・性別・国籍・障害の有無などに関わらず、すべての人を平等に受け入れ共存できる環境や社会を目指す考え方 ②親子の楽しみを充実 ③動物とのふれあいを充実 ④都市部に立地する動物園として地域の賑わいづくり、都心臨海部との回遊性向上
	事業内容	①事業概要  図1 案内図

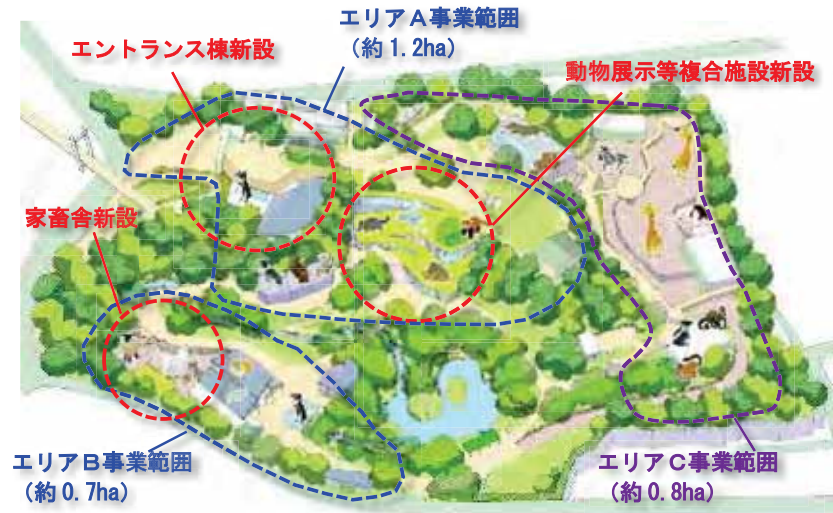


図2 事業範囲及び主要整備施設位置図

【リニューアル事業対象面積】

動物園面積 3.3ha のうち 2.7ha を再整備

(再整備面積の内訳)

- ・エリアA: 約 1.2ha

動物園全域の中で特にリニューアル効果の高いエントランスエリアや、バリアフリー化を図るために不可欠となる動物展示等複合施設を含むエリア

- ・エリアB: 約 0.7ha

身近な動物と多様な形でふれあいを体験できるゾーンで、新しい家畜舎を含むエリア

- ・エリアC: 約 0.8ha

工事期間中の園外搬出が不可能な動物の獣舎とその周辺のエリア

②事業内容

【エリアA・Bの事業の内容】

- ・既存建築物の撤去と3棟の新築及びバリアフリーの課題解消

老朽化した獣舎等を撤去し、新たな施設を新築します。高低差 11mを有する敷地中央部には動物展示等複合施設を設置し、建物内部にスロープ及びエレベーターを設けることでバリアフリー化された移動動線を確認します。

- ・動物展示等複合施設

(RC造・地下1階、地上2階(階数2)、約 1,970 m²)

撤去建築物: レッサーパンダ舎、しろくまの家、旧夜行獣舎、

		コンドル舎、クマ舎 老朽化の進行や、動物福祉における適正施設ガイドライン不適合等の課題のある獣舎を撤去し、雨天時でも楽しめる屋内型の動物展示施設を設けます。施設内にはワークショップや団体利用可能なスペース等も設け、来園者サービスの向上を図り、加えてエレベーター及びスロープの整備により、園内のバリアフリー動線も確保します。 ・ エントランス棟 (RC 造・地上 1 階、約 510 m²) 撤去建築物: 入口施設、授乳室、水禽舎 物販機能の不足の解消、車椅子利用・ベビーカー利用・授乳室利用といった利用者ニーズへの対応のため、動物福祉における適正施設ガイドラインの未適合等の課題のある既存施設を撤去し、新たにエントランス、飲食・物販、動物展示、多様な利用需要に対応した便益機能(トイレ、授乳室、ベビーカー置場、ロッカー等)、バリアフリーな観覧園路を備えたエントランス棟を整備します。 ・ 家畜舎 (RC 造・地上 1 階、約 245 m²) 撤去建築物: シカ・ワラビー舎 老朽化の進行や、動物福祉における適正施設ガイドライン不適合等の課題のある獣舎を撤去し、雨天時でも楽しめる動物観覧スペース、休憩・遊びスペース、バリアフリーな観覧園路が確保された動物展示・飼育施設を整備します。 ・ 関連するインフラ設備改修等 リニューアルに伴う電気設備・給排水設備や外構等の整備・改修等を行います。 【エリアCの事業の内容(予定)】 ・ 飼育・展示施設の整備(キリン・シマウマ、サル等、爬虫類館) ・ 供給処理設備 ・ 舗装、植栽など ※本リニューアル事業は、事業内容の優先度や、工事期間中にも園内で飼育を継続しながら施工を行う都合等を踏まえて、事業対象範囲(動物園全域)を 3 つのエリアに分けて事業計画を立案しています。冒頭の事業目的は、全てのエリアの総体として達成するものです。
--	--	--

	事業スケジュール	令和5年度：基本構想の検討 令和6年度：エリアA・B基本計画の検討 令和7年度～令和8年度 ：エリアA・B基本設計、実施設計、発注手続き 令和9年度～令和10年度：エリアA・B工事 令和10年度末：エリアA・B整備 完了予定 令和11年度以降：エリアC順次整備 ※検討中										
	総事業費	エリアA・Bの整備費：約62億円（国庫31億円 市単31億円） <table><tr><th>施設</th><th>整備費</th></tr><tr><td>動物展示等複合施設</td><td>36.5 億円</td></tr><tr><td>エントランス棟</td><td>13.0 億円</td></tr><tr><td>家畜舎</td><td>5.6 億円</td></tr><tr><td>その他（インフラ、造園等）</td><td>7.1 億円</td></tr></table> ※エリアCは計画策定中ですが、概算で30 億円程度を見込んでいます。 ※今後の精査により変更になる可能性があります。 ※事業費や事業進捗に影響を与える可能性があるリスクとしては、次の事項等が考えられます。 ・工事により飼育動物が受ける影響が想定以上となった場合、当該動物の移動または防音壁等の仮設の設置による費用の追加及び工期の遅れ ・動物飼育環境に関する考え方の変更に伴う設計内容の変更による工事費の変更 ・資材調達性の悪化による工程遅延 ・資材費や人件費等の高騰 ・実施設計段階での工事内容の追加・変更	施設	整備費	動物展示等複合施設	36.5 億円	エントランス棟	13.0 億円	家畜舎	5.6 億円	その他（インフラ、造園等）	7.1 億円
施設	整備費											
動物展示等複合施設	36.5 億円											
エントランス棟	13.0 億円											
家畜舎	5.6 億円											
その他（インフラ、造園等）	7.1 億円											
事業の必要性		①必要性 ・動物福祉への配慮 清潔な環境の提供や適正な給水・給餌だけでなく、動物種に応じた適切な広さの飼育スペースを確保し、本来の運動能力を発揮できるようにします。 ・バリアフリー園路の設置、インクルーシブの推進 最大高低差約20mという地形的特徴により、園内には急勾配な園路や階段があり、子供連れ、高齢者、障害者等の多様な利用者にとって快適に利用できる環境の整備が必要です。「のげやまインクルーシブ構想」において、誰もが分け隔てなく、学び、楽しみ、やすらげる場所となるようなエリア全体での取組が求められています。 ・多様な利用者ニーズへの対応による利便性、サービス向上 令和6年の市民意見募集では、「日よけ用の屋根や木陰、真夏や真冬でも楽しめる園内施設を整備してほしい。」「授乳室やオムツ替え室、										

子ども用トイレなど、親子連れが使いやすい施設を整備してほしい。」などの声が寄せられました。多様な利用者ニーズに対応した施設整備が求められています。

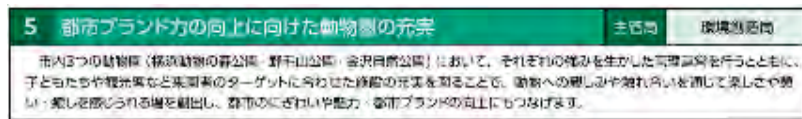
・園内施設の老朽化対策

既存建築物の大半は、RC造建物の法定耐用年数（47年）を超えています。老朽化しており、今後の安全安心な施設運営を可能とする対策を実施する必要があります。

②上位計画における位置づけ

・横浜市中期計画 2022-2025(令和4年12月)

『政策 31 自然豊かな都市環境の充実』において、動物園の施設の充実を図ることとしています。



・のげやまインクルーシブ構想(令和6年1月)

野毛山動物園を含むエリア全体のコンセプトとして以下が掲げられており、インクルーシブなまちづくりの展開に向けた施設整備を進めることとしています。

インクルーシブ構想のコンセプト

〇永く市民の皆様から愛されてきた歴史ある動物園・公園、中央図書館が集積する野毛山地区が、これまで以上に、誰もが分け隔てなく、学び、楽しみ、やすらげる場所となるよう、エリアコンセプトに基づき、各施設が連携しながらエリア全体でまちづくりを進めます。

誰もが学び、楽しみ、交流し、理解しあえる
インクルーシブなまちづくりの展開

エリアコンセプトに基づきリニューアル・施設整備を進める



・野毛山動物園リニューアルプラン(令和6年6月)

動物福祉への配慮を基本におき、野毛山動物園の特徴を生かしながら、さらにその価値を高めていくための4つの視点(① インクルーシブ ② 親子の楽しみを充実③ 動物とのふれあいを充実 ④ 都市型)を定め、これらに応じた様々な取組を進めていくこととしています。

	・ 横浜市建築物における木材の利用の促進に関する方針(令和 4 年 4 月) 脱炭素社会の実現に資する等の目的で、建物を建築する際には木材利用を促進することが全国的に求められています。横浜市でも令和 4 年に上記方針を示し、木材利用の促進に向けた普及啓発等に取り組んでいます。 ・ 公共建築物における環境配慮基準(令和 7 年 3 月改正) 環境負荷の低減及び周辺環境の保全に配慮した公共建築物の整備を推進するため、市が整備する公共建築物に求められる環境配慮の基準を定めています。 ③社会経済情勢 ・ インクルーシブ社会の実現 近年、「誰も取り残さない」という理念のもと、教育・福祉・企業経営・まちづくり・IT 等、様々な分野で「インクルーシブ」をキーワードにした取組が進められ、野毛山地区においても令和 6 年にのげやまインクルーシブ構想を発表しました。 ・ 近年の動物園における動向 動物園が果たすべき役割としては、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」があります。さらに近年では「動物福祉(アニマルウェルフェア)」についての考えが世界的に重要視されるようになっていきます。 ・ 建設費の高騰 建設資材やエネルギー価格及び人件費等の高騰を背景に、公共事業における建設費が高騰しています。 ④公的関与の必要性 ・ 動物園の持つ公共的・公益的役割 動物園の役割として、「種の保存」「教育・環境教育」「調査・研究」「レクリエーション」が挙げられているように、動物園には、一定の公共的・公益的役割が求められています。野毛山動物園においても、希少種であるヘサキリクガメの国内初の繁殖成功や、レッサーパンダの人工哺育の現状や課題について調査研究成果を発表する等、種の保存及び調査研究機関として公益的役割の一翼を担っています。
--	--

	・ 運営の安定性・継続性 安定した飼育環境の提供は動物福祉(アニマルウェルフェア)の観点からも重要です。収益性によって経営体制に影響を受けやすい民間運営ではなく、公的機関が運営に主体的に関与する必要性、意義は高いと考えられます。
事業の効果 (費用便益分析等)	①定性的事項 ・ 動物福祉への配慮 本事業では、JAZA(公益社団法人日本動物園水族館協会)の適正施設ガイドラインに適合した獣舎となり、施設規模の向上だけでなく、断熱性・防水性・採光・通風等の機能向上が図られ、動物の飼育環境が向上します。これにより、動物の心的及び身体的な健康状態の改善、健全な繁殖の推進といった効果が期待されます。 ・ インクルーシブの推進 今回の事業対象範囲について「横浜市移動等円滑化のために必要な特定公園施設の設置の基準に関する条例※」等に適合した施設整備を推進することで、子供連れ、高齢者、障害者等の多様な利用者の利用環境が向上します。また、「のげやまインクルーシブ構想」の構成施設として、野毛山地区一帯のインクルーシブなまちづくりに寄与します。 ※ 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づき、公園の出入口の幅、通路の幅・勾配、高齢者、障害者等が利用する便所を設ける場合の基準などを定めた条例 ・ 多様な利用者の利便性、サービス向上 今回の事業対象範囲について、子育て世代・障害者・団体利用者・雨天時利用等の多様な利用形態に合わせ、雨天時でも楽しめる室内型の動物展示施設の整備や、授乳室の増設などの親子連れの来園者の利便性向上を図るための整備などを行います。また、利用者ニーズに対応した飲食・物販機能の充実や動物とのふれあい・観覧環境の向上等、サービス水準の向上も図ります。 ・ 園内施設の安全・安心の確保及び向上 老朽化している建築物の撤去・建替えを行うことにより、建築物の老朽化の課題が解消され、安全性が向上します。 ・ 管理運営面での利便性向上、効率化 エントランス棟の施設計画の工夫(管理運営体制を考慮した受付、警備員室、倉庫等の配置や規模設定)、動物展示等複合施設の新築による飼育管理の改善(キーパーの作業スペースの確保、設備の更新)等によって、管理運営面での利便性の向上、効率化を図ります。 ・ 教育・環境教育効果 動物展示等複合施設内にワークショップスペースや団体利用スペース

を設け、環境教育や命の大切さを学ぶ機会を提供します。これにより、来園者に対する教育効果や地域の教育資源としての価値が向上します。

・ **地域経済・賑わい創出効果**

リニューアルにより来園者数の増加が見込まれ、周辺地域の飲食・物販・交通などへの経済波及効果が期待されます。また、のげやまインクルーシブ構想の中で、野毛山動物園を含む野毛山地区のリニューアルや施設整備がもたらす波及効果として、都心臨海部との回遊性向上が行われ横浜の都心部全体の魅力向上が進むことを挙げています。

・ **公共施設としての持続可能性の向上**

本事業の取り組みにより、動物園が将来にわたって持続的に運営され、公共施設としての価値や市民からの信頼が高まることが期待されます。

② **定量的事項**

・ **費用便益分析**

割引率	4%(通常)	2%(参考)	1%(参考)
総便益(B)(百万円)	47,891	74,748	96,608
総費用(C)(百万円)	30,236	35,662	39,321
費用便益比(B/C)	1.58	2.10	2.46

・ **感度分析**

算出ケース	ケース①のみ適用			ケース②のみ適用		
	4%(通常)	2%(参考)	1%(参考)	4%(通常)	2%(参考)	1%(参考)
総便益(B)(百万円)	43,102	67,273	86,947	47,891	74,748	96,608
総費用(C)(百万円)	30,236	35,662	39,321	32,212	37,880	41,676
費用便益比(B/C)	1.43	1.89	2.21	1.49	1.97	2.32

算出ケース	ケース①②両方適用		
割引率	4%(通常)	2%(参考)	1%(参考)
総便益(B)(百万円)	43,102	67,273	86,947
総費用(C)(百万円)	32,212	37,880	41,676
費用便益比(B/C)	1.34	1.78	2.09

※ 改訂第4版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（平成29年4月、国土交通省都市局公園緑地・景観課（令和6年3月一部改訂））に基づき算出。

※ 総便益は、公園を直接利用することによって生じる価値である「直接利用価値（利用価値）」及び公園が存在することによって生じる価値である「間接利用価値（環境価値、防災価値）」の合計値

※ 総費用は、施設整備費、用地費、維持管理費の合計値

※ 割引率は最新のマニュアルを参考に、通常の4%に加え、比較のための参考値として2%、1%の場合も加えた3ケースを設定

	※ 感度分析は、以下のケースを想定して算出 ケース① 便益－10% ケース② 施設費＋10% (エリアA・B整備期) 施設費＋50% (エリアC整備期) ※ 野毛山動物園は 1951 年に開園しており、2025 年現在で開園後 74 年が経過している。費用便益分析の算出マニュアルでは、便益発生は供用開始の 49 年後までとされているため、現在の動物園は便益の発生期間が終了している。したがって、今回は既存動物園のリニューアルではあるが、新たに 3.3ha の動物園を新設した場合と同様に扱い、便益の計測を行った。 ③コスト縮減の取組 ◆工事段階でのコスト縮減 ・ 汎用品の積極的な採用により、特殊仕様の設計・施工を抑制し、整備費の低減を図ります。 ◆ 運用段階でのコスト縮減(ランニングコスト) ・ 自然通風、自然採光を活用した設計により、照明・空調設備の稼働負荷を軽減し、電力使用量の削減を図ります。 ・ 設備の更新・修繕においても、汎用品の活用により維持管理費の抑制が可能です。
環境への配慮	①基本的な配慮事項 ・ 周辺環境への負荷の低減 施設配置やバリアフリー化等の検討にあたっては、土地改変や樹木伐採への影響を最小化することを念頭に置いて検討します。また、施設仕様や施工計画の詳細検討にあたっては、再生材等の採用、騒音・振動等の環境影響を踏まえて検討します。 ・ 建築物等の省エネルギー化、木材利用促進 新築する建築物については、断熱性の高い建材の採用、自然採光・通風を活かした設計などにより、省エネルギー化を図ります。また、「横浜市建築物における木材の利用の促進に関する方針」を踏まえて、来園者が利用するエリアの内装などに積極的な木材利用を検討します。 ②本事業の特徴を踏まえた配慮事項 ・ 飼育動物への影響を踏まえた整備計画の立案 リニューアルにあたっては、動物の飼育環境を維持しながら整備を行う必要があるため、動物ごとに整備期間中の一時移動先を検討しながら、動物への影響を最小化させる整備計画を立案します。
地域の状況等	①対象地域の状況 ・ インクルーシブなまちづくりの推進 野毛山地区には長い間市民に親しまれてきた図書館・野毛山公園・野毛山動物園があり、今後新たに障害児者支援拠点も整備予定です。これらの施設が相互に連携し、エリア全体でのまちづくりが展開されています。

	障害児者支援拠点と図書館・動物園・公園との連携 横浜をひらく都市 YOKOHAMA 誰もが学び、楽しみ、交流し、理解しあえる インクルーシブなまちづくりの展開 ○さらに重症心身障害児者等が、図書館や動物園・公園を身近に利用できるようエリア内の施設間で連携した取組を展開します。 ②地域住民の意見募集 ・リニューアルプラン策定における意見募集 「野毛山動物園リニューアルプラン」の策定にあたっては、令和 6 年 2 ～3 月にかけて市民意見募集を行い、得られた意見を計画に反映しています。(添付資料4「市民意見募集リーフレットと募集結果」参照)
事業手法	①管理運営手法 ・指定管理者方式 動物園運営は、飼育技術の継承、動物との信頼関係が大切であり、継続性と安定性が不可欠です。また、動物園は「環境教育」や「調査研究」といった公益的かつ非常に専門性の高い事業領域のため、PFI 等の手法を導入したとしても、競争性の発揮が期待しづらい施設です。また、Park-PFI 等の活用により園内の一部事業に限って別の事業者が参画する場合、事業者が混在することによる調整負担の増加、責任分界の不明瞭化のリスクもあります。 上記を総合的に勘案し、指定管理者方式を採用し、民間事業者を活用した市内 3 動物園の一体的な管理を行います。 ②整備手法 ・市による直接発注・建設方式 市民サービスを提供できない期間を短くする必要があること、また、指定管理での管理運営を前提としていることから、PFI 方式を採用した場合の財政平準化等のメリットを最大限活かすことができないと考え、動物園という施設の特殊性を鑑み、設計に発注者の意図を反映しやすい直接発注・建設方式を採用します。

その他	①対象地の防災に関する情報 ・土砂災害警戒区域 敷地の一部の土砂災害警戒区域に指定された急傾斜地は、擁壁で対策済みです。  土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律 - 土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊・土石流） - 土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊・土石流） ・広域避難場所 事業区域は、一部を除き広域避難場所に指定されています。
添付資料	資料1：横浜市立動物園について 資料2：野毛山動物園リニューアルプラン 資料3：のげやまインクルーシブ構想 資料4：横浜市中期計画 2022-2025(抜粋) 資料5：市民意見募集リーフレットと募集結果 資料6：諸室仕様一覧 資料7：既存施設の状況 資料8：費用便益分析
担当部署	みどり環境局戦略企画部戦略企画課（Tel671-4768）

横浜市立動物園について

横浜市には3つの動物園があり、市民に、動物を通じて楽しさ・憩い・癒しの場、また、世界の野生動物の生態と現状を理解し地球規模での環境保全へ向けて行動する機会を提供しています。また、動物園は、種の保存・保護および調査研究の活動を行い、国際的役割を担っています。

● 野毛山動物園

『小さな子どもが初めて動物に出会い、ふれあい、命を感じる動物園 誰もが気軽に訪れて、楽しく、憩い、癒される動物園』

横浜で一番古い動物園。モルモットなどの小動物とのふれあいができる「なかよし広場」や爬虫類館などが人気を集めています。

● よこはま動物園ズーラシア

平成27年4月に全面公開した横浜で一番新しい動物園。国内最大級の45.3ha。「アジアの熱帯林」から「アフリカのサバンナ」まで8つの気候帯で構成され、展示場は生息環境を再現した「生息環境展示」となっており、オカピやインドライオンなど日本初渡来の動物を数多く飼育しています。

● 金沢動物園

平成元年に全面開園。コアラ、インドゾウなどの希少草食動物を中心に展示しています。周辺の豊かな森をテーマに、身近な生き物を通した環境教育に力をいれています。



野毛山動物園 リニューアルプラン

ZOOっと
あるから
もっと
GOODに
のげやまどうぶつえん

目次



1 はじめに ～野毛山動物園リニューアルプラン策定の背景～	P 1
-------------------------------	-----

2 野毛山地区のエリアコンセプト	P 2
------------------	-----

3 野毛山動物園のリニューアルについて	P 3-6
---------------------	-------

(1) 野毛山動物園の特徴	P 3
(2) リニューアルの視点と取組の方向性	P 5
(3) リニューアルのねらいと想定される効果	P 5
(4) 動物福祉の視点	P 6

4 野毛山動物園リニューアルの内容	P 7-20
-------------------	--------

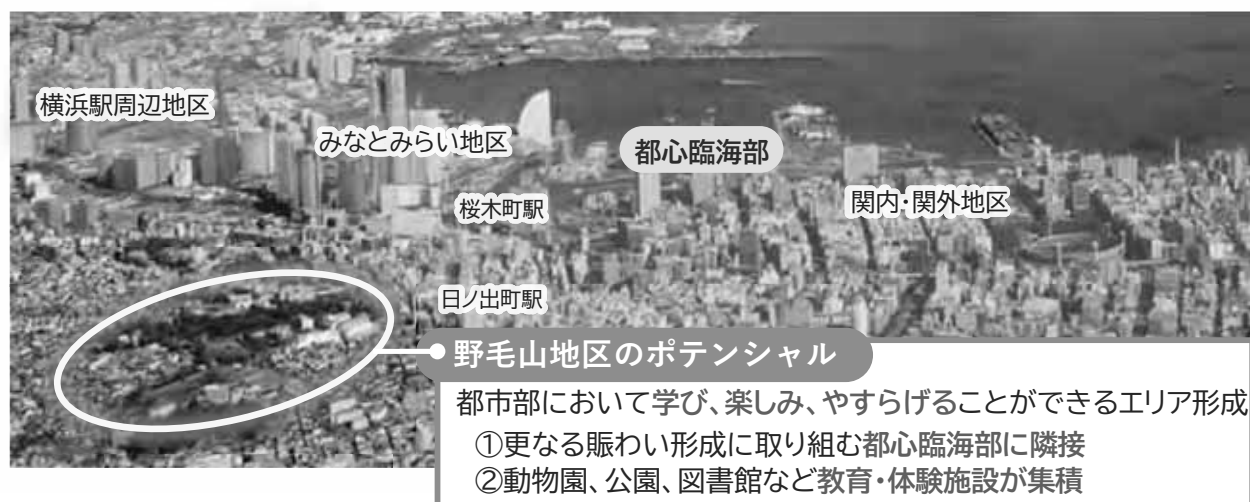
(1) 全体ゾーニング	P 7
(2) エントランス棟	P 8
(3) ズーペリエンタ！ センター	P 9
(4) ふれあいパークゾーン	P 13
(5) 絵本に出てくる動物たちゾーン	P 14
(6) 飲食・休憩所の充実	P 15
(7) その他の取組	P 17
(8) 公園部分について	P 18
(9) 野毛山動物園の楽しみ方(イメージ)	P 19

付録	P 21-24
----	---------

(1) 野毛山動物園について	P 21
(2) 野毛山動物園のあゆみ	P 21
(3) 野毛山動物園を新しくする理由	P 23
(4) 皆さんの声	P 24

1 はじめに ～ 野毛山動物園リニューアルプラン策定の背景 ～

- ・横浜市立動物園の中で最も長い歴史のある野毛山動物園は、これまで多世代にわたる多くの市民の皆様に親しまれてきました。一方、開園から70年以上が経過し、施設の老朽化やバリアフリーへの対応、動物の飼育環境など、改善すべき課題も様々出てきていることから、将来を見据えて動物園全体をリニューアルしていく必要があります。
- ・野毛山動物園周辺には多様な魅力（立地特性/ポテンシャル）があるため、周辺地区のまちづくりとも連携しながら動物園のリニューアルを進めることで、エリア全体の価値を高めていきたいと考えています。



これまで親しまれてきた野毛山動物園のどこか懐かしい空気感は大事にしながら、市民の皆様と様々な動物たちがより快適に過ごせる動物園をつくっていくことを目指し、そのための指針として「野毛山動物園リニューアルプラン」を取りまとめました。



これにより、まちの魅力やブランド力の向上を図り、中期計画2022～2025に掲げた「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」の実現につなげていきます。

2 野毛山地区のエリアコンセプト

野毛山地区がこれまで以上に、誰もが分け隔てなく、学び、楽しみ、やすらげる場所となるよう、エリアコンセプトに基づき、各施設が連携しながらエリア全体でまちづくりを進めます。

誰もが学び、楽しみ、交流し、理解しあえる
インクルーシブなまちづくりの展開

エリアコンセプトに基づきリニューアル・施設整備を進める



コラム1 障害児者支援拠点『横浜市多機能型拠点』の新規整備

▶ 障害がある人にもない人にも、すべての人にやさしいまちになることを目指して
障害児者支援拠点『横浜市多機能型拠点』を新たに整備します。

▶ 医療的ケアを必要とする重症心身障害児者等と
家族の暮らしを包括的に支援するための横浜市
ならではの施設

▶ 野毛山地区への立地により、図書館や動物園と
連携し、インクルーシブな取組を展開

※障害児者支援拠点

…医療的ケアを必要とする重症心身障害児者等と
その家族の地域での暮らしを支援するための施設



多機能型拠点の様子

コラム2 中央図書館内に「のげやま子ども図書館」を整備

▶ 中央図書館の1階について、親子連れや子どもたちが楽しく学べる居心地の良い
“子ども図書館”としてリニューアルします。

R6年度 先行整備

安心・楽しい
親子フロア

子どもたちが何度でも
来なくなる、楽しく学べる
環境づくり



参考イメージ

〔注〕構想段階であり、今後の検討で変更
が生じる可能性があります。

R7年度 改修予定

楽しく学べる子どもフロア

安心して遊び、絵本を読む
環境づくり

〔リニューアルの具体的な内容等
今後検討を進めます〕

▶ 誰もが使いやすい図書館となるよう、
インクルーシブな環境づくりを進めます。

・車いすやストレッチャーでも利用しやすいフロア環境づくり
・バリアフリー動線の整備

3 野毛山動物園のリニューアルについて

(1) 野毛山動物園の特徴

Access

みなとみらい すごくちかい

実は、みなとみらいから、すごく近いんです。
最寄りの桜木町駅からバスで8分。徒歩でも15分。
坂はあるけど... 野毛山公園を通れば急坂も散策に。
でも野毛山の方が昔からあるから、
野毛山から、みなとみらいが近い。のかも。

Contents

ここにはぞうが いたんだぞう

70年以上の歴史がある野毛山動物園では、
かつて象がいた場所をレストランにしたり、
かつてのシロクマ獣舎の内側に入れたり、
歴史があるからこそ、思い出や展示方法、
動物の一生があります。
そんな歴史を知る人がいれば、楽しさも倍増。
世代をつなぐ楽しさがあるのも魅力の1つです。

Contents

もふもふ つるつる ざらざら どきどき

野毛山動物園には様々な動物がいます。

“もふもふ”の動物もいれば、

“つるつる”だったり“ざらざら”の動物もいます。

命は、私たちも含めて、みんな、“どきどき”。

動物とのふれあいや観察が、“生きている”実感に加え、

自分自身の触覚や視覚などの体験を言葉にするのに、

大きな役割を果たしていると言えます。

Facilities

むかしながらも ありながら

昔から知ってる人はもちろん、

初めて来た人にも、どこか懐かしい。

古いからこそ魅力を持つ野毛山動物園。

古くても、いいものは、そのままに。

もっと多くの人に来てもらえるように、

回りやすい園内、古いけど、きれいな園内に。

(2) リニューアルの視点と取組の方向性

今回のリニューアルでは「動物福祉への配慮」を基本におき、
野毛山動物園の特徴を生かしながら、さらにその価値を高めていくための4つの視点
(① インクルーシブ ② 親子の楽しみを充実 ③ 動物とのふれあいを充実 ④ 都市型)
を定め、これらに応じた様々な取組を進めていきます。



コンセプトマップ(上図)について

今回のリニューアルの考え方を体系的に表したもので、種の保存など動物園の基本的役割と動物福祉への配慮をこれからも根本的なマインドとして持ちながら、4つの視点やそれらに紐づく様々な取組が一体となり、新たな野毛山動物園をつくっていくことをイメージしています。

(3) リニューアルのねらいと想定される効果

今回のリニューアルにより、次のような効果を目指していきます。

動物展示と遊びの融合

子育て世代などのホスピタリティ向上

飲食・休憩機能の質の向上

バリアフリー化

動物の住みよい環境づくり

野毛山動物園に
来園される皆様の

**ワクワク感
満足感**

の向上を図ります。

(4) 動物福祉の視点について

今後のリニューアルでも動物福祉の視点を重視し、さらなる充実に取り組んでいきます。

『動物福祉（アニマルウェルフェア）』とは

「動物福祉」とは、英語の「Animal-welfare（アニマルウェルフェア）」を直訳したもので、飼育動物をストレスや病気などの苦痛から解放するという考え方です。

そのためには、清潔な環境の提供や適正な給水・給餌だけではなく、動物種に応じた適切な広さの飼育スペースを確保したり、本来の運動能力を発揮できるようにすること、隠れたい時に隠れられるような展示場にするなどが必要となります。



環境エンリッチメントの取組

～ 飼育動物の本来の行動特性や多様性を引き出し、動物の福祉と健康を改善するための様々な工夫 ～

動物が野生本来の採食行動
を発現できるような工夫

採食

エンリッチメント



野生動物は、1日の多くの時間を採食に費やします。例えば写真のようなフィーダーを展示場に設置し、動物本来の採食行動を発現できる工夫をしています。

動物の行動特性に配慮した
生活空間づくり

空間

エンリッチメント



樹上で暮らす生息環境を再現した
レッサーパンダの飼育場の例

動物の好奇心や探求心を刺激し、
動物自身が思考できるための工夫

認知

エンリッチメント



3次元に動き回る動物の
生態行動を発揮できるような
遊具等の設置

音や匂いなど、動物の五感を
刺激して環境に変化をもたせる試み

感覚

エンリッチメント



群れ飼育や他種動物との
混合展示など社会的な刺激を
増やすための試み

社会

エンリッチメント



動物たちの健康管理のうえで血液検査は欠かせませんが、麻酔や体を抑えたりすることは精神的負担が大きくなります。そこで、『ハズバンダリートレーニング』と呼ばれる受診動作訓練を行うことで、精神的な負担をかけずに検査ができるようになります。



なかよし広場では、動物福祉に配慮した運営を行っています。例えばモルモットについては、自ら表に出ていくことを選んだ個体をふれあいプログラムの対象としています。また、完全予約制で事前にきちんとレクチャーを行ったうえで、かごに入れた形とするなど、動物ファーストの対応を行っています。

今後のリニューアルにより、動物たちがさらに暮らしやすい
環境づくりに向けた様々な取組を推進していきます。

4 野毛山動物園リニューアルの内容

(1)全体ゾーニング

動物種の特性や展示のテーマ性等に応じて動物園内を3つのゾーンに分け、リニューアルを進めていきます。



[注] 図中の各施設は現状の配置を表しています。

1 (仮称) 野毛山へ ようこそ ゾーン【第Ⅰ期エリア】

- * 新たに生まれ変わる野毛山動物園を最初に印象付けるエリア。
エントランス棟では、動物の“映える”モニュメントやペンギンたちが来園者を出迎えるとともに思い出に残る魅力的な物販コーナー等を整備します。
- * 動物展示と多様な“遊び”の機能が融合し、天気や季節を問わず誰もが何度でも訪れたくなる屋内型施設『(仮称)ZOOPerienta! CENTER (ズーペリエンタ！センター)』を整備します。

2 (仮称) ふれあいパーク ゾーン【第Ⅰ期エリア】

- * 身近な動物たちと多様な形でふれあうことで、子どもたちの感性を高めていける場所を整備します。

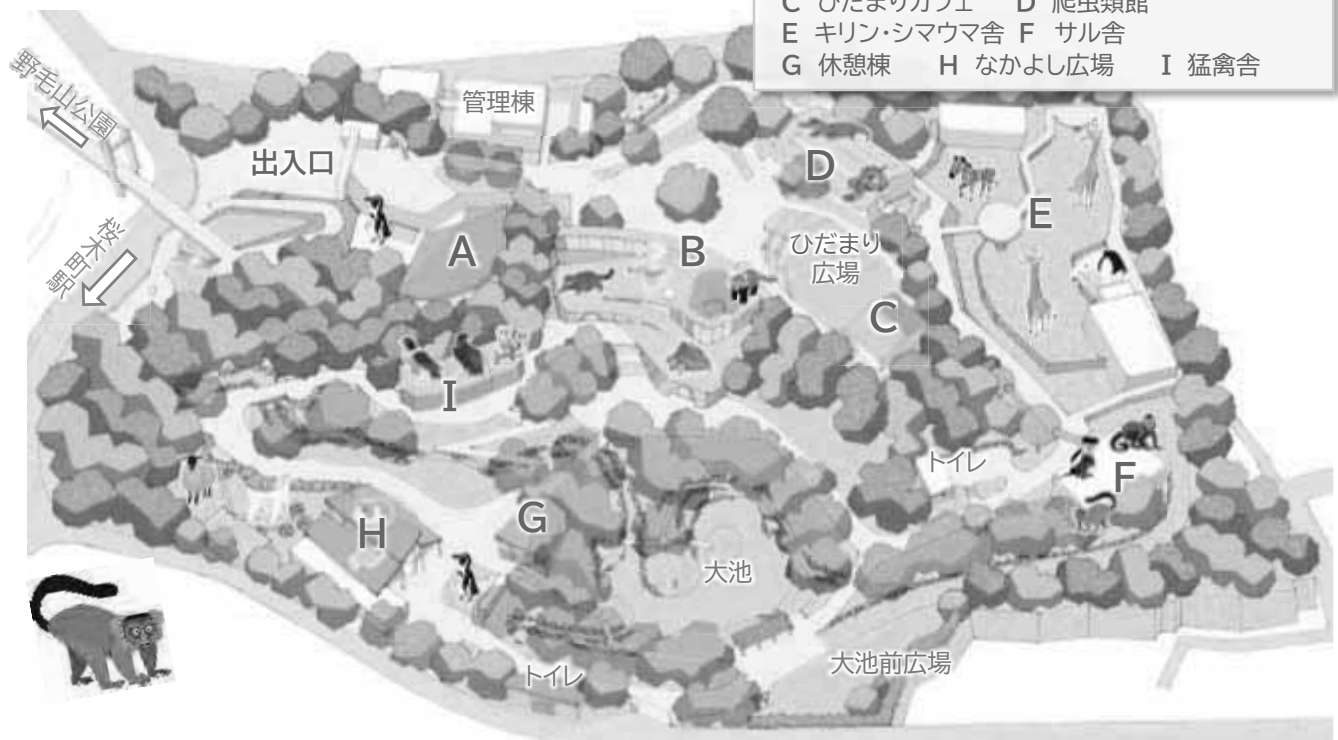
3 (仮称) 絵本に出てくる動物たち ゾーン【第Ⅱ期エリア】※第Ⅰ期以降順次整備

- * キリンやシマウマなど、絵本で目にする親しみある動物たちのいきいきとした姿が楽しめる場所を整備します。

令和10年度までに優先的に整備



リニューアル後 動物園全体のイメージ



(2) エントランス棟



生まれ変わった野毛山動物園を
強く印象付けるエントランスゲート



動物型のモニュメントとともに
思い出の一枚を残せるフォトスポット

動物園に来たワクワク感が高まる
ペンギンたちのお出迎えエリア

目移りが止まらない魅力的な
商品であふれるグッズショップ

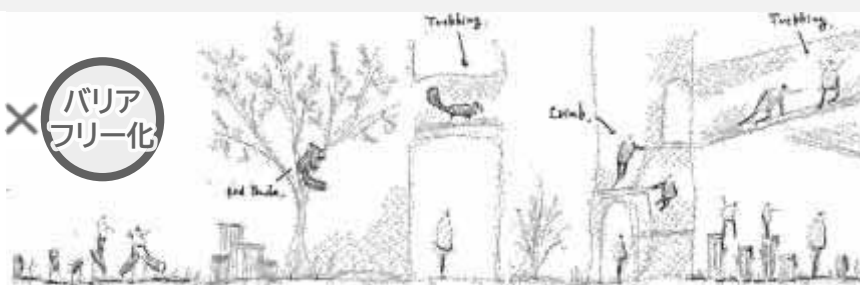


(3)ズーペリエンタ！センター

野毛山動物園のリニューアルを特徴づける新たな中心施設として、遊びを通して動物たちを深く知ることができる、動物展示と“遊び”が一体となった屋内型体験施設『(仮称)ZOOPerienta! CENTER(ズーペリエンタ！センター)』の整備を進めます。

コンセプトイメージ

- ▶ 目の前でイキイキと生活する動物たちと同じ環境の中でいろんな遊びにトライすることで、「私も同じ！」という感情と体験の中から、ヒトと動物の身体的な構造や動き、生態の違い、共通点などを見つけ、その面白さや不思議さにおのずと関心が向くような施設とします。
- ▶ 自分と動物を重ねる体験の先に生まれる、感動と発見に満ちた拠点づくりを目指します。
- ▶ 音などの刺激が伝わらないつくりや、動物が隠れたい時に隠れられる場所を用意するなど、動物にストレスを与えないよう配慮した施設としていきます。



施設名称について

- ・ **ZOO** LOGICAL (ズーロジカル/動物園での)
- ・ EX**PERI**ENCE (エクスペリエンス/経験)
- ・ **EN**TER**TA**INMENT (エンターテインメント/遊び)
- ・ **!** (オドロキ)

(仮称)ズーペリエンタ センター
ZOOPerienta! CENTER

▶ 上記のコンセプトイメージを体現する場所とすることを目指し、4つの単語から組み合わせて施設名称を設定しました。

整備位置



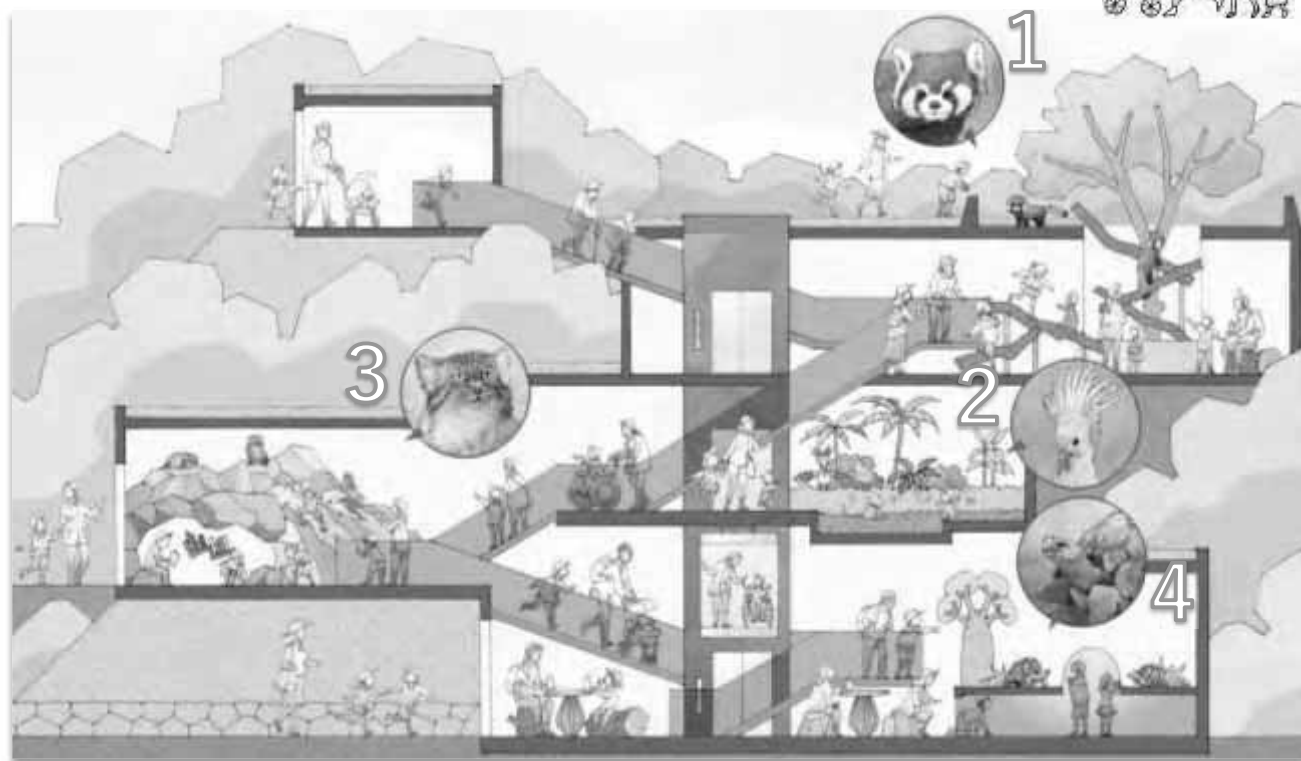
新たな施設の整備にあたってはエレベーターやスロープを設け、バリアフリー動線を確保します。



〔注〕 図中の各施設は現状の配置を表しています。

施設の断面イメージ

施設内にエレベーターやスロープを設け、すべての来園者が楽しく快適に観覧しやすい動線とします。



ズーパリエンタ！センターで飼育することを検討している主な動物

1 レッサーパンダ



野毛山動物園の人気者

森林/樹上

- ・中国等の標高1,500～4,000mの山岳地帯の森林に生息。
- ・夜行性で単独行動。

2 カグー



国内で見れるのは野毛山だけ

密林

- ・生息域はニューカレドニアのみに分布。標高1,400m以下の密林地帯に生息。
- ・捕食者となる天敵がないため、飛翔能力が退化。

3 マヌルネコ



小型ネコ科動物の新規導入

岩場/草原

- ・モンゴル東部～イラン西部に広がる、乾燥して非常に寒い高山帯の岩場や草原エリアに生息。

4 爬虫類 ヘサキリクガメ等



日本で初めて繁殖に成功

乾燥地帯等

- ・写真のヘサキリクガメはマダガスカル島の固有種。乾燥した低木の林地や藪地などに生息。

必要な飼育スペースの広さや温度・湿度などに十分配慮し、それぞれの動物が住みやすい環境をつくっていきます。



1 (仮称) レッサーパンダ ワールド

レッサーパンダたちの住みよい環境をつくとともに、動物を間近に観れる休憩スペース等の設置も検討します。



2 (仮称) カグーワールド

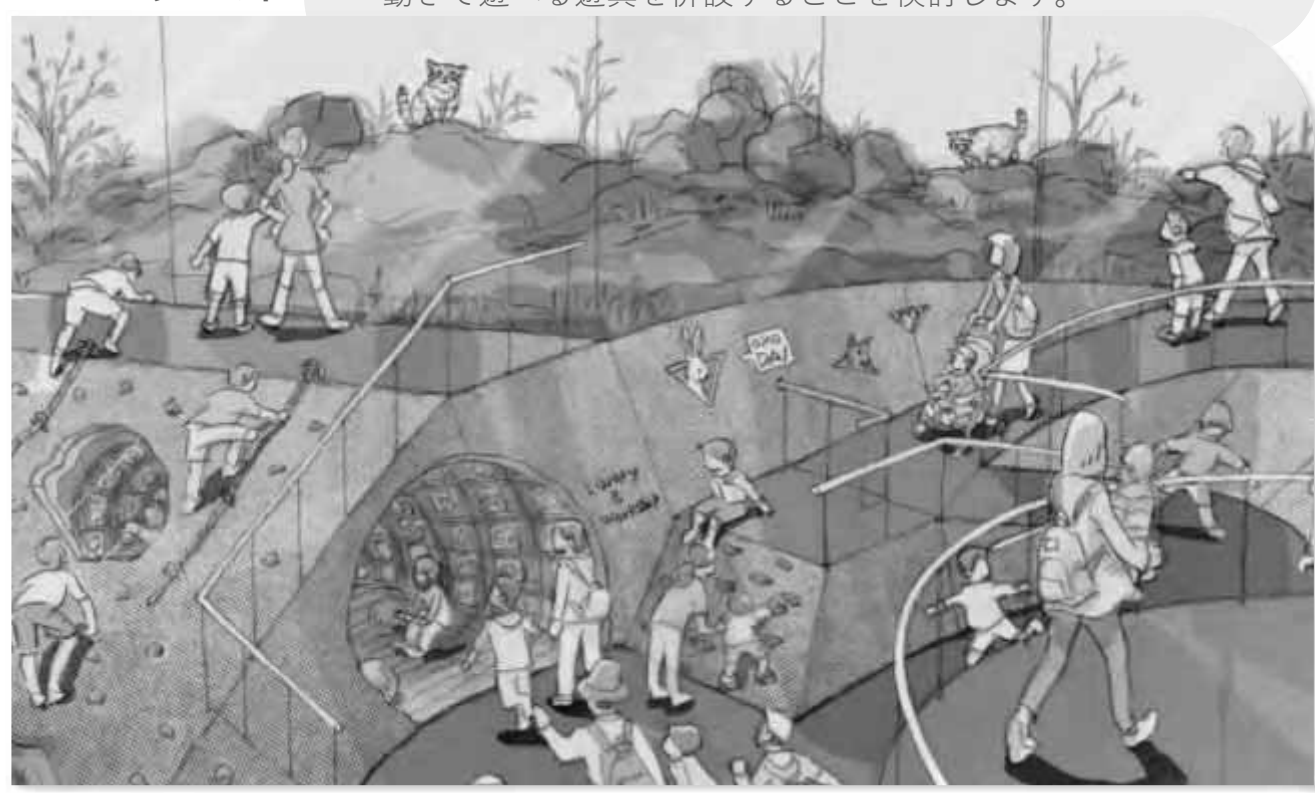
国内では唯一、野毛山動物園で飼育しているカグーの展示と併せて、その生息地の環境を模した遊び空間の整備を検討します。





(仮称)
**3 マヌルネコ
ワールド**

「最古のネコ」とも呼ばれるマヌルネコを新たに展示し、岩場などの生息地の環境を体感しながら、動物と同じような動きで遊べる遊具を併設することを検討します。



(仮称)
**4 はちゅうるい
ワールド**

リクガメなどを多様な方法で観察できるコーナーや、生息地の環境を模した遊具空間の整備、さらに多目的ホールや授乳室などの設置を検討します。



【注】本ページのイラストは現時点での想定であり、今後の検討で変更が生じる可能性があります。

(4)ふれあいパークゾーン



こんなことを検討しています！

動物を身近に感じ、命を体感できる広場の整備

- ・既存のモルモット等の飼育に加え、ヤギやヒツジなどの身近な動物の飼育を新たに開始します。
- ・橋を渡る、岩を登るなど、動物と同じ動作を真似ることで動物の大きさや動きを体感できる場所を整備します。
- ・ガラス越しでは感じられない動物のにおいや体温などを知り、ふれあうことで子どもたちの感性を高めていける場所をつくります。
- ・動物にストレスがかからないよう配慮しながら、ふれあいを実施します。



ふれあいコーナーについて（なかよし広場）

- ・天候に左右されず誰もが動物たちとのふれあいを楽しめるよう、新たに屋根をかけます。
- ・また、隣接のトイレについても親子が使いやすく、子どもの目を引くようなトイレに改修します。
- ・例えば動物が餌を食べるためのフィーダーづくりに来園者自らが参加し、“間接的”に動物の暮らしに関わるなど、多様な方法でのふれあいを実施します。



〔参考写真〕天王寺動物園

(5)絵本に出てくる動物たちゾーン



こんなことを検討しています！

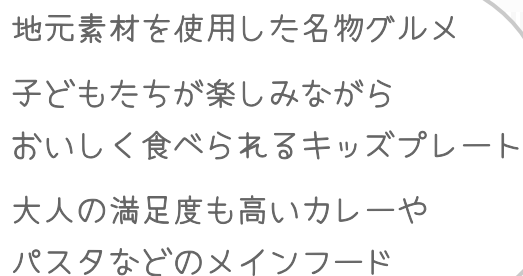
動物たちが暮らしやすく、来園者もワクワクする場所の整備

- ・キリンやシマウマ等の飼育スペースを拡張し、のびのびと暮らせる場所へとリニューアルします。（アニマルウェルフェア＝動物福祉への配慮）
- ・キリンと同じ目線を楽しめるデッキ園路を整備し、より間近にキリンたちと出会い、散歩や観察を楽しめるようにします。
- ・サルが通れるネットトンネル、コアリクイが木登りする飼育スペースなど、動物たちが自由に動き回る様子を楽しめる空間をつくります。

例）現在の飼育場の様子

- ・園内の限られたスペースで飼育していることから、キリンとシマウマは交代で展示場を利用しています。
- ・第2期工事では展示場の拡大を図り、キリンやシマウマがより暮らしやすい環境づくりを進めていきます。

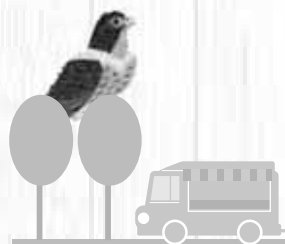




ここでしか食べられない
野毛山オリジナルスイーツ

...など

にぎわいのある楽しい
公園をつくっていきます！



- ③ お弁当やワンハンドフード等を気軽に食べたり、
休める場所などを整備します。



休憩棟の新築

動物観察の合間に小さいお子様連れのご家族ものんびり快適に過ごせる休憩棟に建て替えます。



大池前広場の再整備

大池前にある広場について、芝生を囲むようにベンチ等を設置し、お弁当を広げて皆でワイワイ食べたり、ちょっと休憩できるような居心地の良い場所へと再整備します。



ズーペリエンタ！センター内

ズーペリエンタ！センター内に多目的ホールを整備し、お弁当を食べたり、休憩などができる場所を整備します。

トイレのリニューアル

より快適にご利用いただけるよう、カグー舎横のトイレを建て替えます。

また、障害者等にも配慮したインクルーシブなトイレの設置も検討していきます。



(7)その他の取組

子どもから大人まで、来園された皆さまが
何度でも訪れたくなるような動物園としていくための
多様な取組を検討、実践していきます。



飼育員や獣医のお仕事解説、大人から子どもまで楽しめる
ワークショップなど、多様なプログラムの充実・新規開発



皆様に愛されていた
動物たちの思い出の承継



触覚や聴覚、嗅覚などを通じ、
障害がある方々も楽しく体験できる
ハンズオン展示



分かりやすい案内サインや
動物の説明パネルの充実、
多言語化への対応



募金やクラウドファンディング
などを積極的に活用した
動物たちの暮らしの改善



・・・など

(8)公園部分について

多様な世代や世帯が訪れ、遊び、くつろぎ、賑わう野毛山公園とすることについて検討、実践していきます。

野毛山公園（散策地区）入口のイメージ



〈取組のアイデア〉

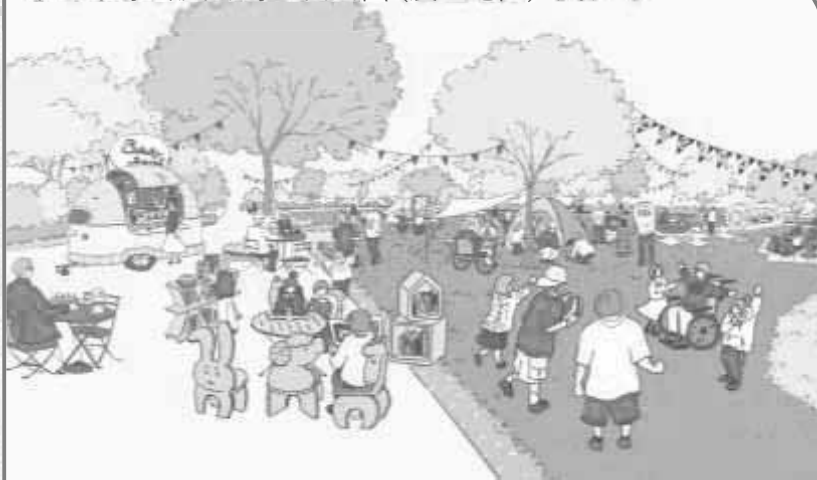
- ・ワクワク感が高まる
ウェルカムZOOゲートや
動物型オブジェの整備
- ・緑や花を楽しみながら、
野毛山動物園へと誘う
小道づくり …など



〈取組のアイデア〉

- ・ゴールデンウィーク等の繁忙期に
おけるキッチンカーの展開
- ・大人から子どもまで楽しめる、
マルシェやワークショップ等の開催
- ・だれもが楽しめる、仮設の遊具や
イベント等の開催 …など

イベント等で賑わう野毛山公園（展望地区）のイメージ



(9)野毛山動物園の楽しみ方(イメージ)

リニューアルによって生まれ変わった野毛山動物園で目いっぱい一日を楽しむ、とある家族の一日をイメージしたモデルケースです。

AM ~ Lunch



9:00

桜木町駅に到着！

今日一日、目いっぱい遊ぼう！



公園に寄り道しながら
動物園に行こう！
ワクワクしてきたぞ！



9:30

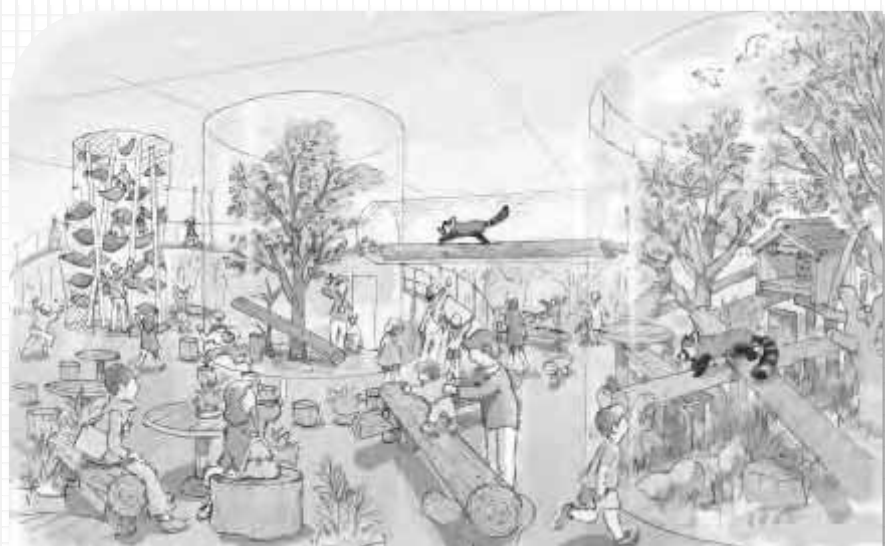
動物園に到着！

フотスポットで写真を撮ったり、ペンギンにも出会えるよ。



10:00

リニューアル後の目玉施設、
ズーパリエンタ！センターへ。
午前中はここで遊んで楽しむぞ！



12:00

あー、遊んだ遊んだ。そろそろお腹がすいてきたな。
レストラン、おいしそうなメニューがいっぱい。
どれにしよう！



お弁当を食べるなら、こちらの利用も！

休憩棟

大池前広場



PM ~

13:00

お腹もいっぱいになったし、
次は爬虫類館に行って、
それからキリンたちに会いに行こう。



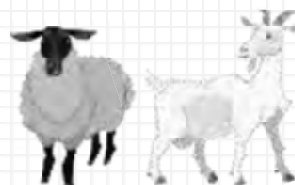
14:20

もう一つ、今日楽しみにしていたふれあいパーク。
かわいい動物たちに癒されよう。



14:00

ちょっと日陰でひと休みひと休み。



15:30

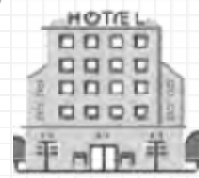
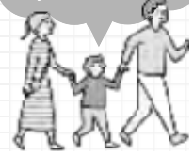
あーとっても楽しかった。
最後にお土産をいっぱい買っていこう。
だいすきな動物たち、またすぐ会いにくるね！



夜ごはんはみなとみらい？ 中華街？
美味しいもの食べていこう！



泊まりなら明日も
いっぱい遊べるね！



(1)野毛山動物園について

MAP



所在地 横浜市西区老松町63-10



アクセス: 電車 JR京浜東北線・横浜市営地下鉄 桜木町駅下車 徒歩15分
バス 市営バス89系統「一本松小学校」行き「野毛山動物園前」下車すぐ



開園時間

9:30~16:30
(入園は16:00まで)

休園日

・毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
・12月29日~1月1日

※5月・10月は無休 ※臨時開園あり



(2)野毛山動物園のあゆみ

S26年 [1951年]	S39年 [1964年]	1969	S47年 [1972年]	S57年 [1982年]	1985	H元年 [1989年]
動物園と遊園地を兼ねた 「野毛山遊園地」の開園	遊園地の閉園・ 動物園の入園料無料化	野毛山動物園友の会発足	「野毛山動物園」に 施設名称を変更 日本初・コンドルの繁殖に成功	フタコブラクダの ツガルさんが入園	日本初・オオアリの繁殖に成功	市政100周年記念にカグーの 贈呈を受けて飼育開始



開園当初から飼育して
インドゾウの「はま子」



▲開園当時の野毛山遊園地



▲混み合う園内 (S43年頃)



S59 [1984]年当時の園内マップ▶



コラム 動物園の役割

近年、世界的に動物園の存在意義は変化しています。

かつては動物の見世物小屋や、王族の趣味の施設から始まりましたが、現在の動物園は博物館としての機能が重視されており、「レクリエーション」施設としての役割のみならず、希少な動物を増やし守っていく「種の保存」や、野生動物を題材に「調査研究」する施設、さらにそれを多くの市民に還元する「教育」施設としての4つの役割がうたわれています。また、近年ではSDGsなど、時代の変化と共に新たな視点も加わってきており、野毛山動物園はこうした大切な役割を長年担い、運営しています。

希少種の繁殖、調査・研究



生態・現状を伝えるガイド



セミナー・研究発表

学校団体向けプログラム



(3)野毛山動物園を新しくする理由

現在の動物園がどんな課題をかかえているか見てみましょう



理由① 高低差の多い園内

現在の動物園には坂や階段があるので、ベビーカーや車イスで園内をまわるのが大変な場所もあります。皆さんが歩きやすい園路にすることで、もっと動物園を楽しめるようにしていきます。



理由② 動物舎が狭かったり、空いている

動物舎(動物たちのお家)が狭かったり、空いてしまっているところがあります。もっと走り回ったり、遊んだりできる広い住まいに直して、動物たちが快適に暮らせる場所をつくっていきます。



理由③ 休憩所やトイレが古くて使いづらい

開園から長い時間が経ち、来園者の皆さんが使いづらかったり、古さが目立つ休憩所やトイレがあります。これらを新たにリニューアルし、訪れる皆さんが快適にすごせる空間をつくっていきます。



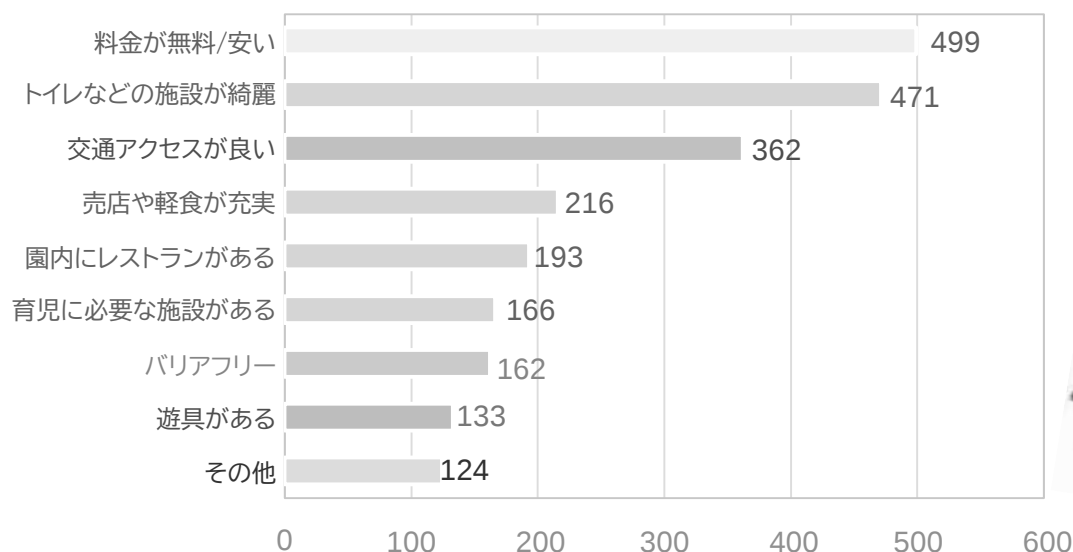
(4)皆さんの声

Q どのような動物園であれば行きたいと思いますか？

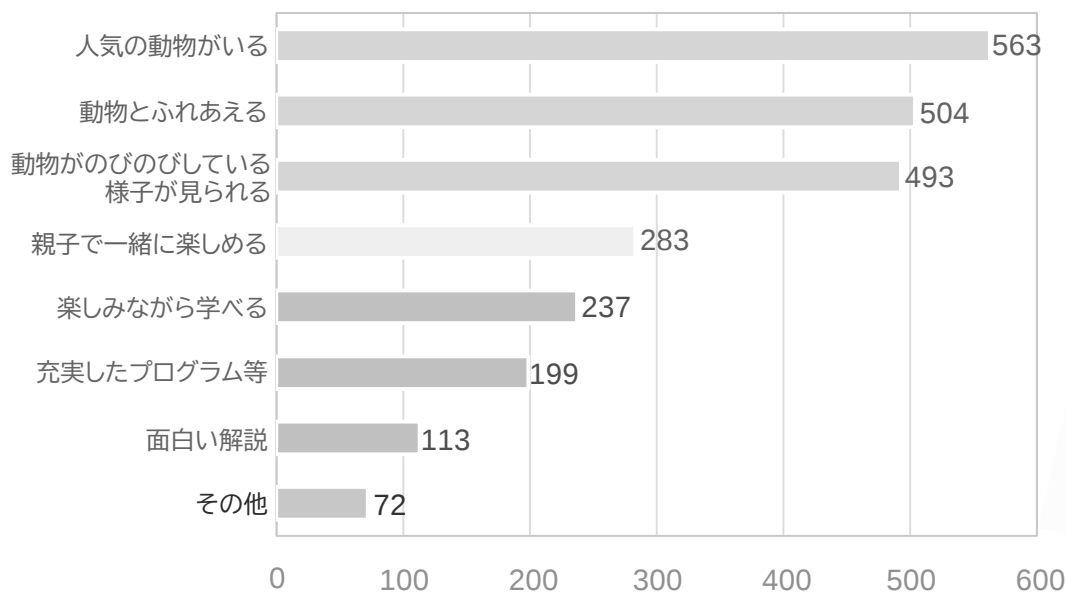
(各項目3つまで選択可)



【施設面】 回答数:2,326



【施設面以外】 回答数:2,464



アンケートの実施概要

実施期間 令和5年6月21日(水)～7月9日(日)：18日間

回答者 1,010名



ZOOっと
あるから
もっと
GOODに
のげやまどうぶつえん



のげやまインクルーシブ構想

“誰もが学び、楽しみ、交流し、理解しあえる” まちづくり

野毛山地区は、みなとみらい地区、関内・関外地区をはじめとする都心臨海部に隣接し、横浜初の動物園や歴史ある公園、中央図書館などの教育・体験施設が集積する、永く市民の皆様に愛されてきた地区です。

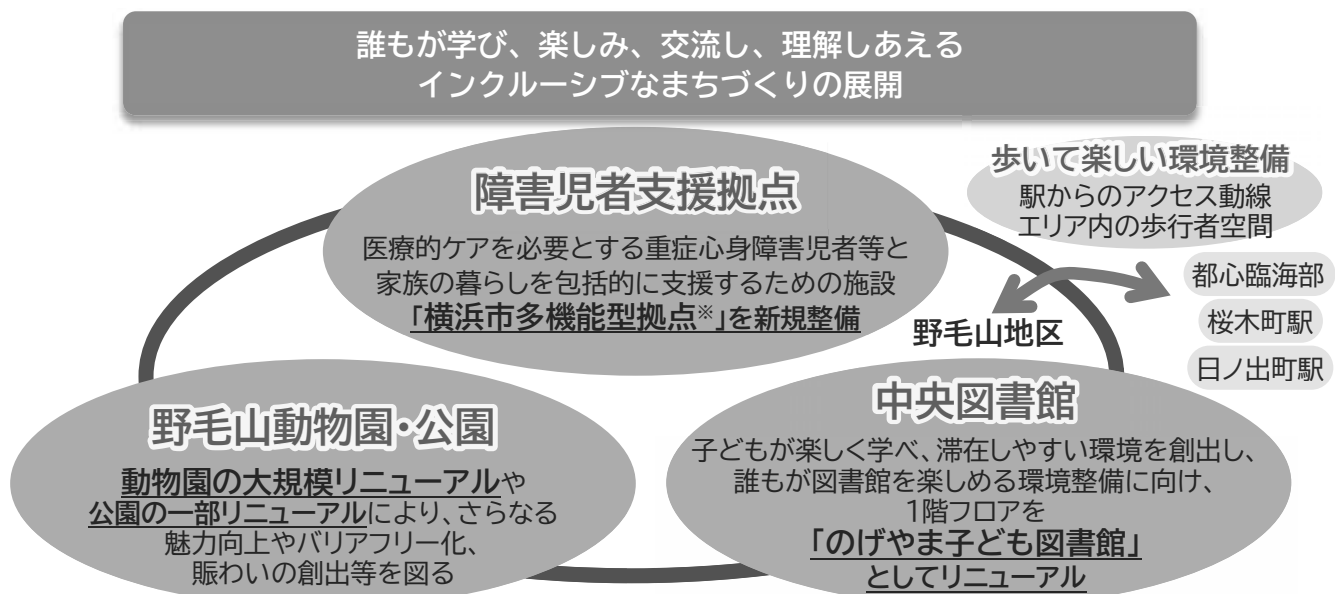
野毛山地区のポテンシャルを生かし、これまで以上に誰もが分け隔てなく、学び、楽しみ、やすらげるインクルーシブなエリアとなるよう、各施設が連携しながらエリア全体でまちづくりを進めます。



〈野毛山地区 案内図〉

1 エリアコンセプト

「誰もが学び、楽しみ、交流し、理解しあえるインクルーシブなまちづくりの展開」をエリアコンセプトとして掲げ、コンセプトに沿ってエリア内各施設が連携しながら新設・リニューアルを進めます。



※横浜市独自の先進事業として市内方面別に6か所整備予定（現在3館運営、1館整備中）

2 取組内容

(1)障害児者支援拠点【新規整備】

旧青少年交流センター跡地(西区老松町 25-3)を活用し医療的ケアを必要とする重症心身障害児者等を対象に生活介護、短期入所、相談支援、診療所等のサービスを一体的に提供する支援拠点『横浜市多機能型拠点』を新たに整備します。(市内5か所目・令和10年度開所目標)



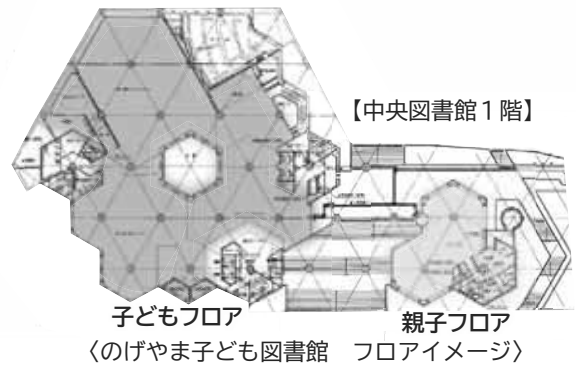
〈横浜市多機能型拠点「こまち」(瀬谷区)の様子〉

(2)中央図書館「のげやま子ども図書館」

【1階フロアリニューアル】

1階レストランフロアを改修し「親子フロア」を整備(令和6年度先行整備)、その後1階メインフロアも「子どもフロア」として全面的にリニューアルします。子どもたちが楽しく学べ、居心地が良い子ども図書館としてフロアリニューアルを進めます。併せてバリアフリー動線の整備等、誰もが使いやすい環境づくりを進めます。

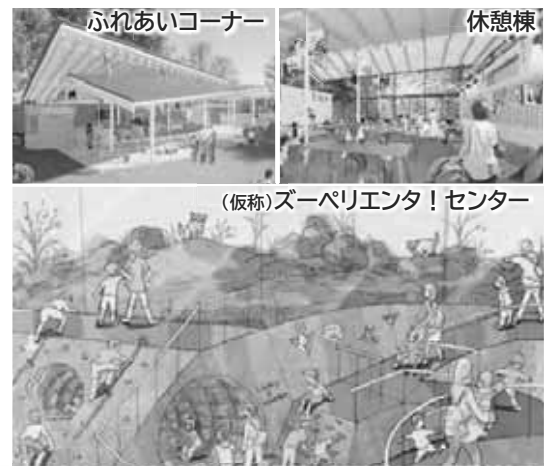
施設名称	中央図書館
所在地	西区老松町1
構造等	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下3階・地上5階
開館年月	平成6年4月(全面開館)
入館者数(R4年度)	830,402人



(3)野毛山動物園・公園【リニューアル】

ふれあいコーナー・休憩棟などの充実(令和6年度先行整備)や、動物の観察・遊び・休息が一体となった中心施設「(仮称)ZOOPerienta! CENTER(ズーペリエンタ! センター)」の整備(令和10年度完成目標)等により、さらなる魅力向上やバリアフリー化を進めます。

施設名称	野毛山動物園・野毛山公園
所在地	西区老松町 63-10
面積	動物園:約 3.3ha 公 園:約 5.8ha
開園年月	動物園:昭和 26 年4月 公 園:大正 15 年9月
入園者数(R4 年度)	517,802 人(動物園)



※本イラストはイメージであり、今後の検討で変更が生じる可能性があります。

〈野毛山動物園 リニューアルイメージ〉

3 施設間連携

エリア内の施設リニューアル等を進めたうえで、重症心身障害児者等が動物園・公園や図書館を身近に利用できるよう、動物園や図書館による障害児者支援拠点への出張体験イベントの実施や、重症心身障害児者が動物園・公園、図書館で外出余暇活動ができるよう環境整備(福祉車両の施設乗り入れ等)を進める等、施設間で連携した取組を展開します。

4 目標スケジュール

- 令和6年度
 - ・野毛山動物園 先行整備完了(ふれあいコーナー屋根、屋内型休憩棟)
 - ・中央図書館内「のげやま子ども図書館(親子フロア)」先行整備完了
- 令和10年度
 - ・野毛山動物園リニューアル 中心施設等の整備完了
 - ・多機能型拠点(障害児者支援拠点)の開所

また、中央図書館内「のげやま子ども図書館(子どもフロア)」改修、野毛山公園の活用、アクセス環境向上などについても順次取組を進めていきます。

お問合せ先
取組全体について 都市整備局企画課長 森 隆行 Tel 045-671-2007
横浜市多機能型拠点 健康福祉局障害施設サービス課長 大津 豪 Tel 045-671-2377
中央図書館 教育委員会事務局中央図書館企画運営課長 小田川 紀可 Tel 045-262-7342
野毛山動物園・野毛山公園 環境創造局動物園課長 白井 智廣 Tel 045-671-2607

Ⅲ 基本戦略

子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ

2040年頃の共にめざす都市像「明日をひらく都市」を実現するためにも、
未来の横浜を担う次世代を育むまちであることが不可欠です。

横浜市では基本戦略として「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を掲げ、
横浜に関わる様々な人・団体の皆様と共に、横浜の受け継ぐ多様な魅力を更に高め、「住みたい都市」
「住み続けたい都市」「選ばれる都市」を目指し、市民生活の質と都市の活力の向上の好循環へつなげていきます。

施策例（抜粋）



テーマ01 子育て世代への直接支援

誰もが安心して出産や育児ができるまち

戦略
1

- 出産費用、小児医療費等経済的負担の軽減
- 保育所、放課後キッズクラブ等安心して預けられる場の提供
- 相談体制の充実や地域での子育て支援
- 困難な状況にある子ども・家庭の支援
- すべての生徒が満足できる中学校給食の実現
- 個性や多様性を大切にする教育の推進



テーマ02 コミュニティ・生活環境づくり

未来を育むつながり・自然・文化・学びに溢れるまち

戦略
1

戦略
2

戦略
5

戦略
7

- 子育て世帯にも居心地の良い図書館づくり
- 自治会町内会等の支援
- 地域活動に参加しやすい風土づくり
- いざというときに困らない医療体制の確保
- 空き家を活用した子育て世帯向け住宅の提供
- 通学路の安全確保（歩行者空間の確保とブロック塀の改善）
- 子どもがスポーツに親しむ環境づくり
- 子どもを育む花と緑の空間づくり
- 子どもの農体験等による土に触れる機会の提供



テーマ03 生産年齢人口流入による経済活性化

住居・交通・仕事において便利で選ばれるまち

戦略
4

戦略
5

戦略
9

- 生活圏内での移動利便性の向上
- 魅力的な商業施設やイベント 関連施設の整備
- 郊外部駅周辺や都心部の再開発による利便性の高い住宅の供給
- 郊外部住宅地における店舗等生活サービスの充実
- 職住近接を実現する郊外部での働く場の確保
- 大規模団地の再生・魅力向上
- 生活や経済を支える交通ネットワーク
- スタートアップ支援
- 規制緩和による戦略的な土地利用
- 中小・小規模事業者への支援
- 商店街の活性化



テーマ04 まちの魅力・ブランド力向上

いつまでも愛着を持って過ごせる魅力的なまち

戦略
6

戦略
7

- 都市デザインの展開による魅力ある都市景観の形成
- 身近な緑地の保全
- 3動物園の特徴を生かした憩い・癒しの場の創出
- ガーデンシティ横浜の更なる推進



テーマ05 都市の持続可能性

将来の世代にわたり安全・安心に暮らせるまち

戦略
3

戦略
8

- ゼロカーボンシティの推進
- 大規模地震への対策
- 風水害に強い都市づくり
- 災害から命を守るための地域防災力の向上

市民生活や事業活動の基盤であり、多様な恵みをもたらす花・緑・農・水を生かした「ガーデンシティ横浜^{※1}」の推進、生物多様性保全への理解と行動の促進、活力ある都市農業の展開により、2027年開催予定の国際園芸博覧会の成功につなげ、横浜ならではの魅力とにぎわいを創出し、自然共生による豊かな暮らしを実現します。

主な内容

■ 多様なライフスタイルを支える自然豊かな都市環境の実現

◇ 国際園芸博覧会の成功とガーデンシティ横浜の更なる推進

健康づくりやスポーツ、観光・MICE、余暇活動や自然体験、地域コミュニティ醸成等の都市に不可欠な場づくり、また地域課題解決に、横浜らしい花・緑・農・水を生かしてガーデンシティ横浜に向け推進します。取組として公民連携や愛護会活動による新たな価値創造、国際園芸博覧会の成功へとつなげ、自然と共生し、多様なライフスタイルを支え「住みたい」「住み続けたい」と思える都市環境を実現します。

◇ 多様な主体の参画による「横浜らしい」水・緑環境の保全・創造

樹林地や農地等の保全、地域の特性を生かした緑や公園、農と触れ合える場の創出、水と親しめる水辺環境や豊かな海づくりなど、横浜らしく多様で、豊かな生態系サービス^{※2}を実感できる環境づくりを、多主体の参画を得て、また、あらゆるまちづくりの機会を捉えて進めます。

◇ グリーンインフラを活用したまちづくりの推進

自然の多様な機能を引き出すグリーンインフラ^{※3}の活用により多主体と連携し取り組み、暑熱緩和・浸水被害軽減など気候変動影響への適応や生物多様性保全、暮らしの豊かさにも貢献します。また、国際園芸博覧会において、グリーンインフラを実装し、持続可能なまちづくりのモデルとして、リアルとデジタルの連動により国内外に広く発信していきます。

■ 生物多様性の保全と利活用の推進

◇ 生物多様性保全と持続可能な利活用のための理解・行動変容の推進

暮らしを支える基盤となる生態系サービスを豊かにするとともに、身近に生物多様性の恵みを実感できる都市づくりを進めます。環境教育や普及啓発をはじめ、様々な取組を通して、生物多様性を自分事として深く理解することにより、主体的な環境行動が定着した、ライフ・ビジネススタイルを実現します。

■ 活力ある都市農業の推進

◇ 都市農業の持続的な発展

スマート農業などの先進技術導入、営農環境整備、意欲ある農家や新規参入者等の担い手の支援に加え、農福連携、副業の選択肢として農業を選択する新たな働き方など多様な農業を推進します。また、各地域の特性に合わせた農地や農景観の活用・保全、農を生かしたまちづくりなど、まちと共生するグリーンインフラとして多様な機能を発揮させ、都市農業の持続的な発展を図ります。

◇ 「横浜農場」^{※4}の展開による横浜の魅力向上

横浜農場の積極的プロモーションにより、横浜の特色ある農や食などを市内外に浸透させ、横浜の魅力（ブランド）として発信していきます。また、地産地消に取り組む多様な主体のネットワークの充実など、循環経済の視点も踏まえ、地域の農や食・人とのつながりを実感する豊かな暮らしの実現を目指します。

※1 ガーデンシティ横浜：市民・企業等の様々な主体が連携し、横浜らしい花・緑・農・水のある豊かな自然環境を更に創出し、潤いや安らぎを感じられる横浜を次世代に引き継ぎ、魅力ある横浜へと発展させていく目指す都市の姿

※2 生態系サービス：食料や衣服、水の循環、花見・森の散策など、人々が生態系から得られる便益のこと

※3 グリーンインフラ：自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方

※4 横浜農場：食や農に関わる多様な人たち、農畜産物、農景観など、横浜らしい農業全体を農場として見立てた言葉

関連データ

「今後の横浜のまち」に市民が期待する項目
「今後の横浜のまち」に市民が期待する項目として、「豊かな自然がある」は令和2年度に引き続き、令和3年度も第2位となっている。

(%)

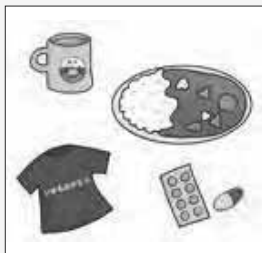
項目	3年度	2年度 ()内は順位
医療体制が充実している	52.0	53.8(1)
豊かな自然がある	37.1	39.9(2)
高齢者や障害のある人も暮らしやすい	35.1	38.4(3)
犯罪が起きにくい	32.9	—
災害に強い	31.1	36.9(4)
子どもを安心して育てられる	28.1	29.8(6)
歴史のある建造物、美しい景観や街並みが多くある	27.6	26.4(7)
多くの企業が集まり、安定した雇用がある	27.4	34.6(5)
市民の声が市政に十分反映されている	21.8	21.5(9)
文化・芸術に触れる機会が多くある	20.7	19.8(10)

【出典】令和3年度横浜市民意識調査

関連データ

生物多様性の意義 【出典】横浜市環境創造局

資源を供給する



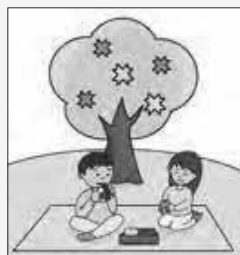
水、食料、衣服、医薬品など

安全・安心を守る



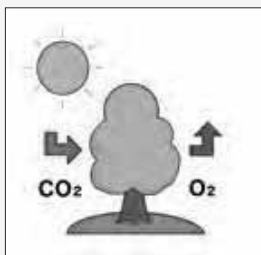
森林による土砂災害の防止など

豊かな文化を育む



花見や森の散策など

生命の土台をつくる



光合成による酸素の生成など

関連データ

水と緑の多面的な機能 【出典】横浜市環境創造局

生物多様性保全機能

樹林地や農地が、健全に保たれ、まともやつながりを持つことで、生物多様性を保全



環境保全機能

ヒートアイランド現象の緩和、大気浄化、騒音防止、防塵等の効果で、都市の環境を改善し、市民の生活環境を保全



景観形成機能

快適で美しく潤いのある都市景観や自然と歴史に基づく個性と風格ある都市景観の形成に寄与



生産基盤機能

地産地消や市民利用型農園、農体験の場としての活用を含めた農畜産物の供給に寄与



貯留・かん養機能

樹林地や農地などの緑は、雨を大地にしみ込ませ蓄えることで、河川や地下水の水量を豊かにし、健全な水循環に寄与



防災・減災機能

雨水のピーク流出量を抑制して浸水被害を軽減。また、オープンスペースとして避難場所や火災延焼防止の効果



スポーツ・健康機能

競技スポーツや健康づくりのウォーキングなど、様々なスポーツに関わる場や機会を増やすことで健康的な生活に寄与



文化・芸術、レクリエーション機能

文化・芸術を育む場や、散策や農体験、子どもの遊び場といった多様なレクリエーションの場を提供



環境教育機能

子ども達をはじめ、多くの市民が自然とのふれあいを通じてその大きさに気付き、まもり育てる行動につなげていく機会を提供



コミュニティ形成機能

地域内外の市民の活動住民の交流の場となることで地域コミュニティの強化に寄与



都市の価値・魅力を高める機能

都市の魅力的な緑や花により、にぎわいの創出や不動産価値向上など、都市全体の魅力向上に寄与



関係する政策

政策31 自然豊かな都市環境の充実

政策32 活力ある都市農業の展開

政策の目標

花・緑・農・水を生かした市民・企業等の参加によるまちづくりやにぎわい創出、観光・MICEなどにより、「ガーデンシティ横浜」を推進するとともに、国際園芸博覧会の開催に向け、自然が持つ多様な恵みを生かすグリーンインフラの視点でのまちづくりを進め、市民が自然と共生する暮らしの豊かさを享受しています。

Park-PFI等公募型事業や公園愛護会活動等による公民連携の取組を進めることで公園の魅力アップによる市民生活の質的向上と都市の持続可能な成長につなげ、さらに動物園の魅力を一層高めることで、横浜のブランド力が向上しています。

環境プロモーションを推進し、生物多様性保全に向けた行動変容が促されるなど、環境にやさしいライフスタイルの実践と定着が図られています。

政策指標

身近な場所で水や緑などの自然を感じられる人の割合

直近の現状値	目標値
62.7%	65%

環境行動を選択して実践している人の割合

直近の現状値	目標値
65.4%	70%

関係するSDGsの取組



現状と課題

- ガーデンネックレス横浜、18区での地域に根ざした花と緑の取組など全市で継続して花と緑による魅力創出に取り組んできたことで、身近な自然に親しむ機運が更に高まっています。
- 平成21年度に開始した「横浜みどりアップ計画」では、約1000haの樹林地の指定・保全のほか、市民協働での花や緑のまちづくりに着手する地区の増加など、横浜の特徴である里山環境の保全・育成、花や緑のまちづくりの推進などが進み、緑被率の減少が鈍化しています。
- 公園に求められる多様なニーズに対応し、「利用者の満足度向上」と「維持管理の効率性向上」を目指すため、「公園経営(パークマネジメント)」の視点を持ち、多様な主体がそれぞれの強みを生かし公園の公民連携の取組を一層推進する必要があります。
- 気候変動やヒートアイランド現象等による都市の「暑さ」の緩和や健康・癒し、生物の生息・生育など、自然が持つ力や恵みを生かす「グリーンインフラを活用したまちづくり」が求められています。
- 地球規模で生物多様性の損失が課題となっていることを受け、本市としても生物多様性保全につながる取組を、より一層推進していく必要があります。また、大気、河川や海域の水質等の環境基準はおおむね満足していますが、社会状況の変化に応じた環境保全策が必要となっています。

水と緑の基本計画のライフスタイル図



【出典】横浜市環境創造局

自然が持つ力や恵みのうち、暮らしやまちづくりに求めるもの



【出典】横浜の環境 2021年版

主な施策

1	ガーデンシティ横浜の更なる推進	主管局	環境創造局
ガーデンシティ横浜のリーディングプロジェクトである「ガーデンネックレス横浜」の取組を継続するとともに、国際園芸博覧会の開催に向け、「公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会」と連携し、会場整備や各区での花や緑を親しむ活動支援等を進めます。			
2	まとまりのある樹林地の保全・活用	主管局	環境創造局
緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り、樹林地の良好な維持管理と整備、活用及び森づくりを担う人材の育成、市民が森に関わるきっかけの提供等、多様な機能を持つ樹林地を保全し、次の世代に引き継ぐための取組を進めます。			
3	市民が実感できる花や緑の創出・育成	主管局	環境創造局、道路局
多くの人が訪れる市街地や、生活に身近な住宅地、子どもを育む空間などで、市民や企業と連携した緑のまちづくり等を通じ、花や緑によるまちの魅力、にぎわいの創出・育成、良好な景観の創出を進めます。			
4	魅力ある公園の新設・再整備及び管理運営	主管局	環境創造局
三ツ沢公園など老朽化した公園の再整備や公園の不足地域への新設整備を推進するとともに、大規模な土地利用転換や旧上瀬谷通信施設・旧深谷通信所等の米軍施設跡地を活用し、多様なニーズに応じた公園整備を進めます。また、公園の将来像を示すパークマネジメントプラン等の策定やPark-PFIを含む公募型事業等の推進、公園愛護会活動の活性化等、多様な主体と連携した整備、維持・管理運営を通じ、公園の魅力とにぎわいを創出します。			
5	都市ブランド力の向上に向けた動物園の充実	主管局	環境創造局
市内3つの動物園（横浜動物の森公園・野毛山公園・金沢自然公園）において、それぞれの強みを生かした管理運営を行うとともに、子どもたちや観光客など来園者のターゲットに合わせた施設の充実を図ることで、動物への親しみや触れ合いを通じて楽しさや憩い・癒しを感じられる場を創出し、都市のにぎわいや魅力・都市ブランドの向上にもつなげます。			
6	良好な水環境の創出、多様な生き物を育む場づくり	主管局	環境創造局
良好な河川環境の創出や生物共生型護岸の整備、プラスチックの海洋流出防止、グリーンインフラを生かした水循環の再生、水再生センターでの高度処理の導入や合流式下水道の改善による公共用水域の保全推進等により、気候変動に対する適応策に寄与するとともに、生物多様性保全につながる豊かな水環境を保全・創出します。			
7	安全・安心で快適な生活環境の実現、生物多様性保全に向けた環境にやさしいライフスタイルの実践と定着	主管局	環境創造局
良好な大気・音・水・地盤などの生活環境を維持しながら、市民の安全・安心で快適な暮らしを確保します。また、動物園での希少動物の種の保存の取組、市内の生物多様性の見える化に向けたデータ収集と活用等の調査・研究、環境行動を促す普及啓発・環境教育を通して、環境にやさしいライフスタイルの実践と定着を進めます。			

施策指標	18区での地域に根差した花と緑の取組	
	直近の現状値	目標値
	18区で実施	毎年18区で実施
施策指標	①緑地保全制度の新規指定面積 ②指定した樹林地における維持管理の支援	
	直近の現状値	目標値
	①31.9ha/年 ②130件/年	①60ha/年 ②400件以上（4か年）
施策指標	市民協働による花や緑のまちづくりに新たに着手する地区数	
	直近の現状値	目標値
	5地区（4か年平均）	6地区/年
施策指標	①新設・再整備の公園 ②Park-PFIなどの公民連携事業の推進	
	直近の現状値	目標値
	①55か所（4か年平均） ②8事業（4か年）	①220か所以上（4か年） ②20事業（4か年）
施策指標	生き物や自然に触れ合う子ども向けプログラムへの参加者数	
	直近の現状値	目標値
	64,358人/年	70,000人/年
施策指標	東京湾流域における高度処理施設の導入率	
	直近の現状値	目標値
	65%	82%
施策指標	①環境管理計画の環境目標の達成率 ②環境教育出前講座の実施回数	
	直近の現状値	目標値
	①生物指標による 水質評価目標 93.7% ②81回/年	①100% ②85回/年

【参考】周辺地区のまちづくりとも連携しながら動物園のリニューアルを進めていきます。

エリアコンセプト

誰もが学び、楽しみ、交流し、理解しあえるインクルーシブなまちづくりの展開

- ▶ 野毛山地区がこれまで以上に、誰もが分け隔てなく、学び、楽しみ、やすらげる場所となるよう、エリアコンセプトに基づき、各施設が連携しながらエリア全体でまちづくりを進めます。



- 本プランに基づく野毛山動物園のリニューアルの着実な実施
- 周辺施設と連携した多様な取組によるエリア全体の価値向上

中期計画 2022～2025

「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」の実現につなげていきます。

野毛山動物園リニューアルプラン(案)について、皆様のご意見をお聞かせください。

郵便はがき

料金を取人払郵便

横浜税局 承認

1043

差出有効期限
令和6年3月
19日まで
(切手不要)

神奈川県横浜市中区本町
6丁目 50 番地の 10

横浜環境創造局

このはがきは使用できません

〒1043 005

該当する項目に各項目1か所チェックをお願いします

- ①お住まい ☐ 横浜市 ☐ 区(区名をご記入下さい) ☐ 横浜市外
- ②年齢 ☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代以上
- ③野毛山動物園へはおもにどなたと行きますか。
☐ 子ども ☐ 配偶者・パートナー ☐ その他家族
☐ 友人・知人 ☐ ひとり ☐ 行ったことがない

募集期間

令和6年2月19日(月)～令和6年3月19日(火)まで

応募方法 次の方法で、ご意見をお寄せください

- ① はがき(左のはがきを切り取り、ご使用ください)
【切手不要 当日消印有効】
- ② FAX 045-633-9171
【横浜市 環境創造局 動物園課 意見募集担当あて】
- ③ 電子メール ks-noge-iken@city.yokohama.jp
- ④ インターネット入力フォーム
▶ スマートフォンで回答される方は
右の二次元コードからアクセスできます。
▶ パソコンで回答される方は、下記よりアクセスください。

野毛山動物園 市民意見募集

検索

お問い合わせ

※上記の HP 開設は2月19日10:00を予定しています。

横浜市 環境創造局 動物園課 意見募集担当

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目 50 番地の 10
TEL 045-671-4124

・いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。
・電話でのご意見の受付及びご意見への個別回答はいたしませんので、あらかじめご了承下さい。
・ご意見の提出に伴い取得したメールアドレス、FAX 番号等の個人情報(「横浜市個人情報の保護に関する条例」の規定に従い適切に管理し、ご意見の内容に不明な点があった場合などの連絡・確認の目的に限って利用します。

ZOOっとあるから
もっとGOODに
のげやまどうぶつえん

市民意見
募集

野毛山動物園
リニューアル
プラン(案)

募集期間

令和6年2月19日(月)

～ 令和6年3月19日(火)

横浜市立動物園の中で最も長い歴史のある野毛山動物園は、これまで多世代にわたる多くの市民の皆様により親しまれてきました。一方、開園から70年以上経ち、施設の老朽化やバリアフリーへの対応、動物の飼育環境等、改善すべき課題も様々出てきています。

横浜市では、野毛山動物園がもつどこか懐かしい空気感は大事にしながら、市民の皆様と様々な動物たちがより快適に過ごせる動物園をつくっていくことを目指し、「野毛山動物園リニューアルプラン(案)」を策定しましたので、市民の皆様のご意見を伺います。

プランの詳細はこちら ▶

野毛山動物園 市民意見募集

検索

リニューアルに向けた4つの視点・取り組みの方向性

野毛山動物園の特徴を生かしながら、さらにその価値を高めていくための4つの視点(インクルーシブ/親子の楽しみを充実/動物とのふれあいを充実/都市型)を定め、これに応じた様々な取組を進めていきます。



リニューアルによる効果

- ▶ 多様な視点からの取組により市民サービスの向上等を図るとともに、次世代に継承していける価値の高い動物園をつくっていきます。

動物展示と
遊びの融合

子育て世代などの
ホスピタリティ向上

飲食・休憩機能の
質の向上

バリアフリー化

動物の住みよい
環境づくり

野毛山動物園に来園される皆様の ワクワク感 満足感 などの向上を図ります。

リニューアル ゾーニング(案) [注]各イメージは現時点での想定であり、今後の検討で変更が生じる可能性があります。

動物種の特性や展示のテーマ性等に応じて動物園内を3つのゾーンに分け、順次リニューアルを進めていきます。



1 (仮称) 野毛山へ ようこそ ゾーン

エントランス棟では、動物の“映える”モニュメントやベンギンたちが来園者を出迎えるとともに、思い出に残る魅力的な物販コーナー等を整備します。

動物展示と多様な“遊び”の機能が融合し、天気を問わず誰もが訪れたいくなる(仮称)ズーパーリエンタ！センターを整備します。



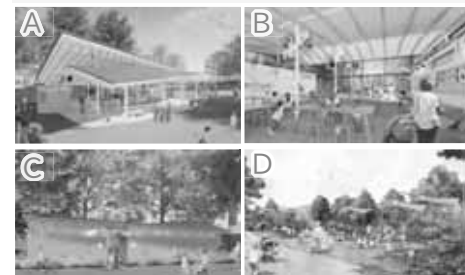
2 (仮称) ふれあいパーク ゾーン

身近な動物たちと多様な形でふれあうことで、子どもたちの感性を高めていける場所を整備します。



3 (仮称) 絵本に出てくる動物たち ゾーン

絵本で目にする親しみある動物たちのいきいきとした姿が楽しめる場所を整備します。

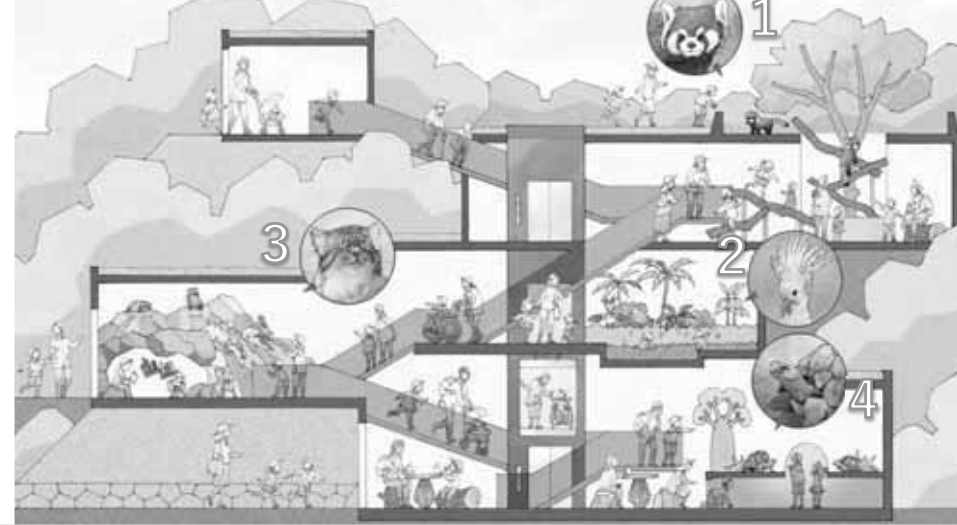


- ◀ これらの施設は令和6年度中の完成に向けて再整備し、市民サービスの向上を図ります。
- A 既存の「ふれあいコーナー」に屋根をかけ、雨天でも動物と楽しく遊べる場所に再整備します。また、トイレについても、誰でも使いやすいトイレに改修します。
 - B・C 快適に利用できる休憩棟やトイレに建て替えます。
 - D 大池前の広場について、お弁当を広げてくつろぎ、休憩ができるよう再整備します。

(仮称)ズーパーリエンタ センター
ZOOPerienta! CENTER … 『ZOOLOGICAL』+ 『EXPERIENCE』+ 『ENTERTAINMENT』+ 『!』
(動物園での) (経験・体験) (楽しみ・遊び) (オドロキ)

- * 『4つのワールド』を遊びながら体験することで、動物の世界や環境行動への理解を深めていけるような施設の整備を進めます。
- * 施設内部は緩やかなスロープとエレベーターで動線を計画し、バリアフリー化の実現とともに園全体の賑わい創出を図ります。

〈施設断面イメージ〉



1 (仮称) レッサーパンダワールド

人気が高いレッサーパンダと出会う最初の場所。レッサーパンダたちの住みよい環境をつくるとともに、休憩スペース等の設置も検討します。

2 (仮称) カグーワールド

国内では唯一、野毛山動物園で飼育しているカグーの展示と併せて、その生息地の環境を模した遊び空間の整備を検討します。

3 (仮称) マヌルネコワールド

「最古のネコ」と呼ばれ、近年人気が高いマヌルネコを展示し、岩場などの生活環境を模したアスレチック遊具を併設することを検討します。

4 (仮称) はちゅうるいワールド

リクガメを多様な方法で観察できるコーナーや、生息地の環境を模した遊具空間の整備、多目的ホール・授乳室などの設置を検討します。

④野毛山動物園リニューアルプランに関するご意見
※複数選択可

- ☐施設に関すること ☐動物に関すること
 - ☐サービス(飲食、物販等)に関すること ☐その他
- ご意見

キリトリ線

野毛山動物園リニューアルプラン（案）に対する市民意見募集の実施結果

1 実施概要

実施期間	令和 6 年 2 月 19 日（月）～ 3 月 19 日（火）〈30 日間〉
リーフレットの配架 及び周知方法	・ 市民情報センター、西区及び中区の区役所広報相談係等での配架 ・ 野毛山動物園及び周辺の鉄道駅等に設置した PR ボックスへの配架 ・ 広報よこはまや市ウェブサイトへの掲載 等
意見の提出方法	はがき / FAX / 電子メール / 横浜市電子申請・届出システム（市ウェブサイト内） / 持参（市庁舎 27 階 動物園課 意見募集担当で受付）

2 実施結果

（１）意見数 意見通数 551 通 意見総数 1,187 件

（２）主な意見

① 動物福祉、動物の飼育環境 について 【373 件】
・ 動物ファーストの姿勢は絶対に忘れないようにすべき。 ・ 床の素材や空調など、動物に配慮した優しい施設にしてほしい。 ・ ふれあいは動物に強いストレスを与える場合が多く、慎重になるべき。 など
② 動物園内外の環境整備 について 【156 件】
・ 日よけ用の屋根や木陰、真夏や真冬でも楽しめる園内施設を整備してほしい。 ・ ところどころにモニュメントなどの装飾があった方が歩いていて楽しい。 ・ 老朽化した旧配水池を改修して遊べるエリアにできないか。 など
③ プランのコンセプト について 【133 件】
・ インクルーシブな動物園という考え方は今の社会に必要な視点だと思うので、ぜひ実行してほしい。 ・ 獣舎と遊び場を隣接して設置することで、動物にストレスがかかる心配がある。 ・ 静かに動物を観察したい人も気兼ねなく過ごせる空間をつくってほしい。 など
④ 入園料やリニューアルにかかる費用 について 【118 件】
・ 毎日行ける動物園として無料を継続してほしい。 ・ 物販やイベント、クラウドファンディングなど、入園料以外の部分で収益化してほしい。 ・ 入園料を徴収して動物の福祉に充てるべきだ。 など
⑤ 動物についての情報発信、イベント等 について 【104 件】
・ マップや動物の説明パネルを充実してほしい。ふれあいなどのイベントは続けてほしい。 ・ 視覚障害者向けに触って実感できる説明の工夫などがあると良い。 ・ 大人向けの飼育体験など、大人も楽しめるイベントがあるとありがたい。 など
⑥ 飼育する動物種 について 【99 件】
・ マヌルネコの展示に期待している。 ・ カピバラやアメリカンビーバーなどを展示してほしい。 ・ キリンやライオンなど子どもに分かりやすい動物は引き続き残してほしい。 など

⑦ 飲食、売店、グッズ等 について 【76 件】
・子ども向けや地元店の限定メニューなど、もっと充実してほしい。 ・テイクアウトして食べられるスペースやキッチンカーがあると良い。 ・オリジナルグッズや大人でも使えるようなグッズがほしい。 など
⑧ 駐車場の設置や動物園までのアクセスルート について 【39 件】
・近隣駅からの直行バス等が整備されると便利だ。 ・駅からの坂がかなり大変なため、駐車場などを整備してほしい。 ・野毛方面や日ノ出町周辺について、まちの環境改善が必要だ。 など
⑨ トイレや休憩所等の来園者向け施設 について 【32 件】
・授乳室やオムツ替え室、子ども用トイレなど、親子連れが使いやすい施設を整備してほしい。 ・重度障害者向けに、大きな長椅子ストレッチャーのある多機能トイレを整備してほしい。 ・休憩施設に動物に関する絵本や飼育の絵本を置いてほしい。 など
⑩ その他 【57 件】
・働いている人も良い環境で過ごせるようにすることは大切だ。 ・動物にエサをあげたり物を投げたりしているお客さんがいるのでやめさせてほしい。 ・大地震が起きた時の対策をしっかりと準備してほしい。 など

諸室仕様一覧

※各面積は、屋外展示場を除く建築面積

動物展示等複合施設 1,970m²

諸室		計画面積	備考
飼育・展示関係	レッサーパンダ	145m ²	展示場、寝室、管理スペース
	カグー	80m ²	
	マヌルネコ	165m ²	
	リクガメ	130m ²	
サービス	休憩・観覧	890m ²	遊びや体験を通して動物たちを深く知ること のできるエリアや、遠足時の団体利用、 ワークショップ用スペースを含む
	トイレ・授乳室	70m ²	
その他	廊下・階段・EV等	350m ²	
	機械室、倉庫ほか	140m ²	

エントランス棟 510m²

施設		建築面積	備考
飼育・展示関係	ペンギン	15m ²	ペンギン隔離室・子育て室
サービス	受付・警備員室等	55m ²	
	ショップ	200m ²	倉庫含む
	トイレ・授乳室等	70m ²	
	屋根付き観覧通路	120m ²	
その他	機械室	50m ²	機械室含む

家畜舎 245m²

施設		建築面積	備考
飼育・展示関係	ヤギ・ヒツジ等	125m ²	展示場、寝室、管理スペース
サービス	休憩・観覧	120m ²	

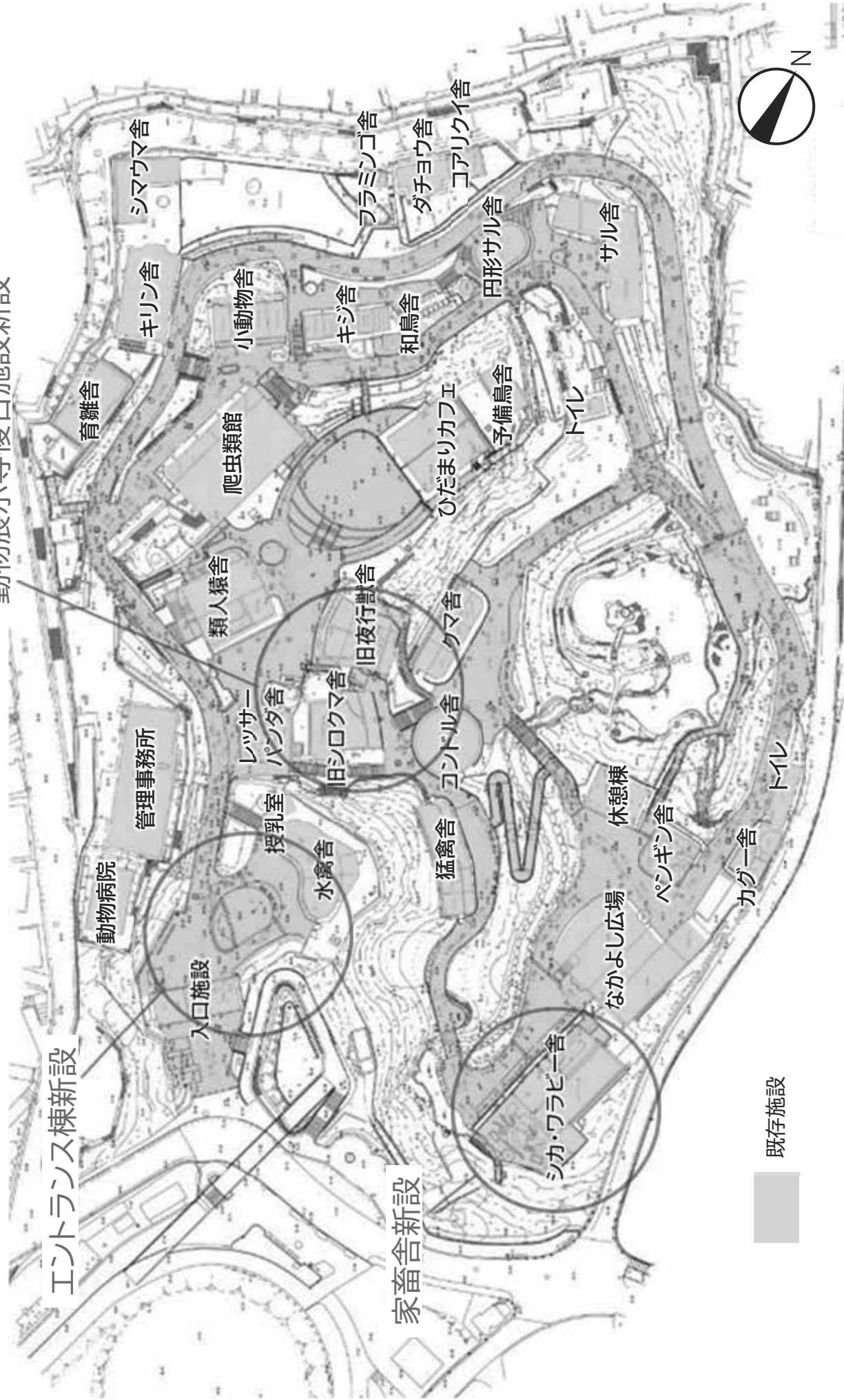
既存施設の状況

資料7

動物展示等複合施設新設

エントランス棟新設

家畜舎新設



既存施設

費用便益分析

1. 費用便益分析結果

(1) 算定条件

- ・ 事業期間：令和 5（2023）年度～令和 15（2033）年度
- ・ 評価期間：令和 11（2029）年度～令和 65（2083）年度
- ・ 評価時点：令和 7（2025）年度
- ・ 割引率：4%、2%、1%

改訂第 4 版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（国土交通省）に基づき算定

- ・ 感度分析：ケース① 便益－10%
 ケース② 施設費＋10%（エリア A・B 整備期）
 施設費＋50%（エリア C 整備期）

(2) 分析結果

表 1 便益と費用の内訳（基本ケース：割引率 4%）

総便益（百万円）		総費用（百万円）	
利用価値	事業全体	費用	事業全体
直接利用価値（利用）	24,302	用地費機会費用	10,940
間接利用価値（環境）	10,861	施設費	8,472
間接利用価値（防災）	12,727	維持管理費	10,825
合計	47,891	合計	30,236

※用地費機会費用とは、改訂第 4 版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（令和 6 年 3 月一部改訂）（以下「マニュアル」という）に基づき、用地をその他の用途に向け売却することにより得られたかもしれない利益を失ったという意味で「機会費用」が発生しているとして、評価最終年の翌年に用地費と同額をマイナス計上し、用地費及び機会費用の現在価値換算化したものの合計を用地費機会費用としている。

【費用便益分析結果】

表 2 費用便益分析結果

割引率	4%（通常）	2%（参考）	1%（参考）
総便益(B)（百万円）	47,891	74,748	96,608
総費用(C)（百万円）	30,236	35,662	39,321
費用便益比(B/C)	1.58	2.10	2.46

【感度分析】

表 3 感度分析結果-1

算出ケース	ケース①のみ適用			ケース②のみ適用		
	4%（通常）	2%（参考）	1%（参考）	4%（通常）	2%（参考）	1%（参考）
総便益(B)（百万円）	43,102	67,273	86,947	47,891	74,748	96,608
総費用(C)（百万円）	30,236	35,662	39,321	32,212	37,880	41,676
費用便益比(B/C)	1.43	1.89	2.21	1.49	1.97	2.32

表 4 感度分析結果-2

算出ケース	ケース①②両方適用		
割引率	4% (通常)	2% (参考)	1% (参考)
総便益(B) (百万円)	43,102	67,273	86,947
総費用(C) (百万円)	32,212	37,880	41,676
費用便益比(B/C)	1.34	1.78	2.09

マニュアルによる費用便益分析結果は、割引率 4%、2%、1%、感度分析においても、全てのケースで費用便益比「1.0」以上となっており、事業として十分効果があると言えます。

※割引率（社会的割引率）とは

費用便益比を求めるにあたっては、同じ額でも時期によって価値が異なるものをそのまま用いることは適当ではないため、便益、費用ともに社会的割引率を用いて現在価値化を行う必要がある。なお、費用は物価変動分を除去するためデフレーターにより基準年度の実質価格に変換する。

デフレーターは、物価変動などの時間軸上の価格を補正するもので、費用の発生と評価時点が異なる場合は、デフレーターによる補正が必須となる。一方、社会的割引率は、時間軸上の価値を補正するもので、同じ財の現在と将来の交換比率である。すなわち、将来の費用（効果又は便益）と現在の費用（効果又は便益）は実質的な価値が異なり、現在の費用（効果又は便益）に比べ将来の費用（効果又は便益）の価値が低いものとする。その価値の低減度合いを示すものが社会的割引率である。

【水道事業の費用対効果分析マニュアル：厚生労働省健康局水道課】

2. 費用便益比の算出方法

(1) 費用便益分析の概要

公園の費用便益分析は、「改訂第4版 大規模公園費用対効果分析手法マニュアル（平成29年4月、国土交通省都市局公園緑地・景観課（令和6年3月一部改訂））、以下マニュアル」に基づき、算出するものです。

公園整備事業にかかる費用（用地費、施設費、維持管理費等）と、公園整備によって得られる便益（直接利用価値、間接利用価値）を、すべて貨幣価値に換算して比較する手法です。

費用便益比（便益 ÷ 費用）を計算し、その結果が1.0以上であれば、得られる便益がかかる費用を上回ると判断されます。この結果は、事業の投資効果を評価することに用いられます。

評価指標	定義	特徴
費用便益比 (CBR: Cost Benefit Ratio) ※以下 B/C と表記	$\frac{\sum_{t=0}^n B_t / (1+i)^t}{\sum_{t=0}^n C_t / (1+i)^t}$	- 単位投資額あたりの便益の大きさにより事業の投資効率性を比較できる。 - 社会的割引率によって値が変化する。

ただし、 n : 便益計測対象期間、 B_t : t 年次の便益、 C_t : t 年次の費用、 i : 社会的割引率、 t_0 : 現在年次

（出典：マニュアル p.3）

(2) 計測対象となる便益及び計測方法

分析にあたって計測対象となる便益は、直接利用価値と間接利用価値である。それぞれの概要は以下のとおりです。

価値分類		意味	機能	価値の種類
利用価値	直接利用価値	直接公園を利用することによって生じる価値	健康レクリエーション空間の提供	健康促進
				心理的な調いの提供
				レクリエーションの場の提供
				文化的活動の基礎
				教育の場の提供
	間接利用価値	間接的に公園を利用することによって生じる価値	都市環境維持・改善	緑地の保存
				動植物の生息・生育環境の保存
				ヒートアイランド現象の緩和
				気候緩和
				二酸化炭素の吸収
				騒音軽減
				森林の管理・保全、荒廃の防止
			都市景観	季節感を享受できる景観の提供
				都市形態規制
			都市防災	洪水調整
				地下水涵養
				災害応急対策施設の確保(貯水槽、トイレ等)
				強固な地盤の提供
				火災延焼防止・遅延
				防風・防潮機能
				災害時の避難地確保
				災害時の救援活動の場の確保
				復旧・復興の拠点の確保
オプション価値	現在利用はしないが、将来の利用を担保することによって生じる価値			
非利用価値	存在価値	公園が存在することを認識すること自体に喜びを見いだす価値		
	遺贈価値	将来世代に残す(将来世代の利用を担保する)ことによって生じる価値		

（：マニュアルで計測対象としている価値）

直接利用価値及び間接利用価値の計測方法は以下のとおりです。

便益	計測方法	詳述
直接利用価値	旅行費用法	・「公園利用者は、公園までの移動費用をかけてまでも公園を利用する価値があると認めている」という前提のもとで、公園までの移動費用（料金、所要時間）を利用して公園整備の価値を貨幣価値で評価する方法 ・公園利用に影響を及ぼす要素である公園整備内容を「自然・空間系」「施設系」「文化活動系」の3つに分類したうえで需要関数を導出し、これを用いて消費者余剰分（消費者が「支払っても良い」と考える最大の価格（支払意思額）と実際に支払った価格との差額）を計測することにより便益を算出する
間接利用価値	効用関数法	・「公園整備を行った場合と行わなかった場合の周辺世帯の持つ望みし（効用）の違い」を貨幣価値に換算することで公園整備を評価する方法 ・環境の維持・改善、景観の向上に役立つ価値（環境価値）及び防災に役立つ価値（防災価値）を計測対象として効用関数を導出し、これを用いて「整備対象とする公園からの距離に応じた世帯の支払意思額」を計測することにより便益を算出する

(3) 対象となる費用

対象となる費用は「用地費」「施設整備費」「維持管理費」であり、それぞれの概要は以下のとおりです。

費用	概要	詳述
用地費	建設費のうち用地取得及び補償費に要した費用	・発生した（又は発生が予定されている）年次に取得に要した費用を計上する ・用地の全部または一部が無償で取得できる場合は、周辺の公示地価（住宅地）に公園面積を掛けた値を用地費とみなし、その値を用地取得した年次に計上する。これは、無償で取得できた土地であっても、それを他の用途向けに売却することにより得たかもしれない利益を失ったという意味で、「機会費用」が発生しているという考え方によるものである
施設整備費	建設費から用地費を除いた費用	・施設を整備した年次に費用を計上する ・施設整備が複数年に渡る場合は、それぞれの年次に計上する
維持管理費	公園の維持管理、運営に必要となる費用	・供用開始年度から評価対象期間に発生するものとして計上する ・過去の実績値、公園整備計画による概算値、周辺の類似事例による概算値等を用いて設定する

(4) 感度分析

費用便益分析において実施する感度分析の概要は以下のとおりです。

概要	・感度分析とは、事業の不確実性に対応するために実施するものであり、分析結果の蓄積を通じて、事前に事業をとりまく不確実性を的確に認識し、適切な事業の執行管理や効率性低下等への対応策の実施などを適時的確に講じることにより、事業の効率性の維持向上を図るものである ・感度分析は、「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針（共通編）」に則り実施するものである
具体的な内容	・費用便益分析の結果に影響を及ぼす要因について、その要因が仮に変動した場合に費用便益分析結果に及ぼす影響を把握する ・考えられる影響要因は、事業の特性や事業環境等を考慮し、当該事業の評価結果に大きな影響を及ぼすと考えられるものを適宜設定する ・都市公園事業においては、例えば「公園利用者数及び世帯数」「残事業費」「残事業期間」「発生便益」等が考えられる。 ・影響要因の変動幅については、社会経済データや同種事業の費用便益分析結果、事例分析等に基づき設定する。 ・ただし、社会経済データや同種事業の費用便益分析結果、事例分析等の蓄積が不十分な影響要因については、基本ケース値の±10%を変動幅の標準とする。 ・それ以上に不確実性の度合いが大きい又は小さいと想定される影響要因については、実務経験者や有識者の意見等に基づいて変動幅を設定することも考えられる。